

**第7期高砂市障害福祉計画兼  
第3期障害児福祉計画策定に向けたアンケート  
結果報告書**

**令和5年10月**

**高砂市**



# 目 次

I. 調査概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査期間と調査方法.....	1
3. 調査対象と回収状況.....	1
4. 報告書の見方.....	1
II. 関係団体調査結果.....	2
1. 団体(機関)の概要について.....	2
2. 高砂市の障害者福祉における各分野について.....	5
3. 団体の今後について.....	16
4. 障がいのある人の悩みや今後の支援について.....	18
5. 行政(市)に対する要望について.....	19
III. 事業所調査結果.....	20
1. 事業所の概要について.....	21
2. 事業所利用者の状況について.....	26
3. 事業所の運営・経営について.....	35
4. 各分野についての現状や課題.....	42



# I. 調査概要

## 1. 調査の目的

本調査は、計画の策定にあたり、団体・事業所に対してアンケート調査を行い、障がいのある方を取り巻く現状や課題、今後の方向性等に関する意向をお伺いし、計画策定の基礎資料とするために実施したものです。

## 2. 調査期間と調査方法

- ・調査期間：令和5年8月4日から8月25日まで
- ・調査方法：郵送・メールによる配付・回収

## 3. 調査対象と回収状況

調査対象	配付数	回収数	回収率
関係団体	17件	14件	82.4%
事業所	39件	29件	74.4%

## 4. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

## Ⅱ. 関係団体調査結果

区分		団体名
障がい者団体	身体障がい	高砂市肢体不自由児者父母の会
		高砂市視覚障害者協会
		高砂難聴者協会
		東播地区人工呼吸器を付けた子の親の会
	知的障がい	兵庫県自閉症協会高砂ブロック
		高砂市手をつなぐ育成会
ボランティア団体	朗読	朗読ボランティアグループむつみ会
	精神福祉	精神保健福祉ボランティアグループ ありんこの会
		あしたば家族会
	点訳	高砂六星会
	要約筆記	高砂要約筆記サークルちびダンボ
関係団体		加古川市立加古川養護学校
		社会福祉法人 加古川はぐるま福祉会
		兵庫県東はりま特別支援学校

### 1. 団体（機関）の概要について

#### （1）団体の活動を継続・発展させる上での課題や必要な支援について

##### 【課題点】

人材不足・高齢化
・ 会員の減少。多人数活動、コロナの関係で制限される（部屋が小さい）。
・ 会員数の停滞。
・ 会員の高齢化。
・ ピア活動の参加者を増やすこと。ボランティアが不足している、増やしたい。ボランティアの後継者の育成。
・ 集客や法人活動の PR、職員の人材確保と育成。
・ メンバーの減少。
・ 高齢化によるリスナーの減少。
・ 視覚障がい者向けの音訳 CD を視覚障がい者以外の読書に困難を抱えている方に届けたい。
・ 設立当時から現在まで会員が減少している。個人情報への為、医師会、補聴器専門店で協力して PR したが会員拡大になりませんでした。
・ 新しい会員の入会がない。同じ悩みを持つ親同士が語らい、悩みの相談をする場所の必要性が薄れてきているのではと思われる。

### 人材不足・高齢化

- ・要約筆記者が高齢化しており、若い人々が後継してくれるのが難しくなっている。養成講座を社会福祉協議会等と協同事業として毎年行ってきたが、受講後要約筆記活動に参加してもらえない。よって会のメンバーが増えない。

### 緊急時の対応

- ・医療的ケアを必要とする子どもたちの割合が6割を超え、慢性的に看護師不足になっています。教師が教育に集中し、また子どもたちが安心して過ごせるためにも看護師の安定確保が必要です。

### その他

- ・会員の年会費だけでは様々な活動を行うのは難しい。
- ・現在、補助金と会費で「勉強会」「研修会」を実施していますが、今後、新しい事業を企画・実施する為の事業資金不足が課題になっております。また、会員数が諸般の事情で年々減少しています。
- ・会の活動について、市民への理解を広げるための情報発信活動。
- ・現在、若い親御さんが少なくなり、活動に元気がなくなってきた。

## 【必要な支援】

### 宣伝活動

- ・朗読サービスを必要とされる方に我々の活動を伝える支援。広報への掲載は年度ごとに行わせていただいています。障がい福祉課の窓口にご相談に来られた方やご家族に対して録音CDの案内や紹介があればと思います。
- ・高砂市内では聴覚障がいを持つ手帳は高齢者が多いと聞いています。老人会連合にお願いし、難聴者同士の仲間の活動がありますとPR協力をお願いしたい。
- ・広報やマスコミとのアクセス。
- ・学校や行政の方々に悩みの相談をする場所の必要性を発信してほしい。

### 補助金

- ・行政からの補助金等。
- ・補助金の増額をお願い致します。また、会に入会しても、会としての希望・要望等が、行政として理解・解決してくれない為、会としての意義がない。行政としての理解・解決の支援を真剣に考えてほしいと思います。
- ・施設の立地、交通のアクセスという面で課題があり、通所の助成等が充実するとありがたい。
- ・民間活動として活動する場合、手話、要約筆記者をつけているが、手話通訳者、要約筆記者の費用を捻出するのに困っている。このような活動時にも公費で充当できるようにしてもらいたい。

### ボランティア不足

- ・ボランティアの不足。特にスポーツイベント等の審判等正式に出来る人がいない。
- ・活動をする時にボランティアの助けがほしい。

### その他

- ・活動継続に必要な資材（用紙類、原本・参考書、パソコン、点字板、タイプライター、点訳本等）の保管場所の拡大。
- ・専門職（精神保健福祉士や公認心理士等）による定期的なサポートが必要と考えます。
- ・学校の看護師の配置について、支援をお願いしたいと思います。

## (2) 今後の団体の方向性（力を入れて取り組んでいきたいこと等）

### 高齢化

- ・高齢化に向け健康に生活できる様に。
- ・親の高齢化と本人の高齢化のため、グループホームや居住施設がほしい。

### 障がい理解

- ・障がい者理解を進め、本人も家族も住み慣れた地域で安全で安心して暮らせるように研修会等を行う。
- ・子どもたちの理解を深めたり、子どもたちに関わる人たちの研修を実施したりしながら、医療・教育・福祉の充実を目指す。

### 子ども

- ・市内普通小学校に通う点字利用児童への支援。
- ・医療的ケアの子どもたちが6割を超え、活動内容の幅が狭まってきていますが生活年齢に合わせた活動をできるだけ取り入れ、発達を促していくことが大事であると考えています。それにより、自分自身の身体や心を知り、少しずつ外界や物へ興味を持ち、様々な生活文化に触れることで自分の気持ちを表出できるようになってほしいと願っています。
- ・会員の子どもの今後の将来が安心してできるように取り組みたい。

### 広報

- ・同じような活動をしているボランティアグループを知りたい。どのような活動をしているのか、活動の方法等知りたい。
- ・より幅広い方に法人のことを知ってもらい、地域で当たり前働き暮らすということを応援していきたい。
- ・視覚障がいの方に加えて、ひとりでは読書が難しい方（高齢者、病気等で姿勢の維持や識字が難しい方）への読書の可能性を広げたい。

難聴
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢が高くなると中途難聴（高齢難聴）者が多いと聞いています。補聴器は高額の為、加齢補聴器の補助金の実現へ力を入れています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・要約筆記活動が活発になるということは、難聴者がもっと積極的に自らの不自由を解消するために、難聴者が申し出て、難聴者の集いに参加し、社会参加をするようにならないといけない。今、障がい者手帳を受け取り、少なくとも補助を受けている人になるには70 デシベル以上でないといけない。しかし高齢化により40 デシベルから70 デシベルまではなんの補助もない。70 デシベルを下げ、せめて50 デシベルになれば手帳交付補助の制度にしてほしいと運動を活発にしていきたい。</li> </ul>

その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「精神保健研究会」は県議会・神戸市議会・姫路市議会・明石市議会・加西市議会で既に設立されています。精神福祉の現状を少しでも理解・改善していくために「精神保健研究会」を高砂市議会で設置してほしいと思います。精神福祉は、他の障がい福祉に比べて遅れています。他障がいと同等もしくは将来的に発展するためによろしくお願いします。</li> </ul>

## 2. 高砂市の障害者福祉における各分野について

### (1) 療育、保健・医療、教育の充実

障がいがある人の療育、保健、教育について

- 現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で団体ができることがあれば、教えてください。

#### 【現状や課題】

施設の不足・医療機関の対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私共の会員の子どもの多くが進学する学校では、今看護師不足が課題で医ケア児も増えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の入院等緊急時の受入れ先の確保。</li> <li>・小児科から内科へのスムーズな移行。</li> <li>・福祉制度利用における地域格差の改善。</li> </ul>

システムの構築
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高砂市が出している通学バスがありますが、運転中上下の揺れが激しく、医療的ケアのある子どもたちが乗車するには、危険が伴うと聞いています。そのため医療的ケアのある子どもの保護者が登下校を自家用車でを行っています。毎日のことであるとともに、運転中吸引することも難しい状態です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「8050 問題」を控えて、また、精神障がい者の地域移行の為に「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の経験や情報が細切れになりうまく連携できていないと感ずることがある。</li> </ul>

その他
・障がいの段階に応じて寄り添い、よりきめ細かい支援が必要だと考えます。困った時にどこに行けばよいのか知らない人が多い。
・医療→65才以上の聴覚障がい者で特定健診、クーポン券等書類にFAX番号が記載されていない。 ・教育→昔は自宅から遠く、特別支援学校や難聴学級のある普通の小学校に通ったが現在は、自宅の近くにある学校へ普通の生徒達と一緒に学ぶようになったが先生との連絡はとれているかは問題がある。
・現在、子どもを病院につれていくのが大変な家庭もあり、なんとかしたいと考えている。
・発達障がいにかかわる方々、特に保護者に障がいへの理解が深まっていない。
・難聴を抱えながら70デシベルまで我慢して社会参加をしていない。

### 【あれば良いと思う支援・団体ができること】

施設の設定
・学校へ看護師の派遣等。重度心身障がい児者が自宅にしながら医療を受けることが出来る仕組み。
・介護タクシーと訪問看護を雇用いただき、家から学校までの送迎サービスを行っていただくと、保護者が安心して子どもたちを学校に通わせることができると思います。
・保険・医療・教育・福祉関係者による協議の場の設置、当然、当会も協力いたします。
・お互いを知り、繋がれる場や、同じ問題やケースを共有して、一緒に考える場。できることとして、働く現場で起きていることを情報発信する。
・医療→書類にFAX番号を記載できるようにしてほしい。 ・教育→教室に携帯用ループの設置、言葉の聞き取りと発声訓練の為、言語聴覚士を設けること。そうすると、高校は特別支援学校ではなく、普通の高校、大学へも行ける道があるので有効です。

その他
・行政の人のアドバイス（例えば、ピア活動に来ていただき、現状を知ってほしい）。困っている人に対して、私達が受け止めてつなげていく。
・医療・福祉・教育・行政への要請行動。
・今のところ支援等をしたいと思うけれど、力不足で、何ともできないのが悔しいです。
・子ども達の将来を見据えながら、それに向けての支援やアドバイスをする場がほしい。我々でよければその支援や相談についてアドバイスをしたい。
・難聴者が70デシベル以下で社会参加をしていない人々をも難聴者で組織している協会に参加していけるようPRしていくこと。

## (2) 雇用・就労の支援

### 障がいのある人の雇用・就労について

- 現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で団体ができることがあれば、教えてください。

#### 【現状や課題】

内容
・車椅子というだけで就職が困難である。
・就労支援が、自立に結びついているのかと感じます。将来に結びつくような広い職種の支援がほしい。
・車椅子を利用している生徒が利用できる就労継続支援 B 型事業所が高砂市にありません。作業的にはあるかもしれませんが、送迎サービスがないため、そこに通うことができない現状です。また、医療的ケアを受けいれている就労継続支援 B 型事業所もない現状があります。
・現在、就労継続支援 B 型等の福祉事業所等に行き自立を目指して頑張っている障がい者は多いですが、そこから一般就労に移行して自立できるのはほんの少し、自立ができない障がい者は今後どうしたらいいのでしょうか。
・世の中は「地域で当たり前働き暮らす」という流れが進んできているが、一般企業へ送り出すような支援や訓練を行う所はまだ少ない。また、様々な働き方等に注目されるようになってきているが、それにあわせて、柔軟に福祉サービスを組み合わせていける体制も整っていない。
・障がい者をもっと理解してほしい。特に公共の人たちはもっと勉強してほしい。
・発達障がい者の独自の思考が健常者の思考とかなりの相違があるので就労する場合、雇い主側にその相違の理解が進んでいないように思われる。
・就労までの人は自ら名乗り出るまで分からない。

## 【あれば良いと思う支援・団体ができること】

内容
・ 企業の理解。
・ さまざまな職業（手に職をつけるなど）に就ける支援。就労継続支援 A 型と就労継続支援 B 型以外に、起業できるような支援の窓口。総合的な支援の強化を望みます。
・ 車椅子送迎がある就労継続支援 B 型事業所ができれば、子どもや保護者にとって、安心できると思います。
・ 自立ができない障がい者の将来を支援する制度を、行政として構築してほしいと思います。当団体としては限度があり困難です。
・ 短時間の雇用＋就労継続支援 B 型の利用等、本人のニーズにあわせて柔軟なサービスの提供。就労支援の現場等で起こっている課題等の共有等。
・ 受入れ側に対して、十分な説明が必要です。説明が必要な場合、我々でよければ説明させていただきます。
・ 新たな事業所等は進路指導部を通して、保護者へ通信等で知らせる。障害者就業・生活支援センターとの情報共有を行いながら、卒業生の就労状況について把握する。

### (3) 生活環境の整備

住居や公共施設、道路、公共交通機関などのバリアフリー化の推進や移動手段の確保、障がいのある人の災害・緊急時の支援について

- 現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で団体ができることがあれば、教えてください。

#### 【現状や課題】

移動手段
・市内において公共交通機関の利用は現実的ではないので福祉タクシーがもっと気軽に利用できれば。福祉避難所が少なすぎる。
・ユーアイ福祉交流センター～山陽電車高砂駅間の歩道の整備。幅・道路の凹凸等
・移動支援に困っています。タクシーチケットがあっても、介護タクシーの値段が高いため、なかなか外出しようとはならない現状があります。
・地域にグループホーム等がまた少ない。バス等の本数が減り南北の移動に不便さがある。災害時の緊急支援体制等どうなっているか分からない。
・以前あったじょうとんバスのバス停（ユーアイ福祉交流センター前）が無くなり、不便になっています。
・鉄道無人駅での駅員不在が問題である。

災害時
・障がい者の災害・緊急時の支援に関しての個別避難計画が、数年前から言っているのに未だに構築されていない。また、福祉避難所の確保もできていない。
・災害時は医療的ケア児・者の避難場所が限られるため、避難場所の確保とそこまでの移動支援が求められている。
・どこにどのような障がいを抱えた市民がいるのかを確実に把握し、災害発生時には情報提供や避難等に向けた支援をいち早く行う体制づくりが必要である。
・災害時支援の体制は高砂市消防局とのFAXでのやりとりの体制は整えてはいる。

その他
・「何ごとがあっても親が責任をもって見ておけ」みたいな風潮があるが、もっと皆で見守ってほしい。
・ショートステイ等（保護者の病気等緊急時）について障害福祉サービス受給者証に記載がない場合がある。役所から見ればいつでも可能だというが、保護者にすれば不安である。普段からの利用がなければ預かっていただく事業所に受入れに対し不安が生じる場合があるので無理にでも利用する必要があるのでしょうか。

## 【あれば良いと思う支援・団体ができること】

地域との連携・情報の発信、提供
・福祉避難所を増やしてほしい。また、避難所での電源の確保。
・早急に、個別避難計画の作成及び福祉避難所の確保を行政にお願いいたします。
・高砂市内に福祉避難所が開設されるのであれば、あらかじめその場所について保護者に知らせることができる。

移動支援
・市で巡回の介護タクシーを用意していただくとともに、介護タクシーに乗らなければいけない人には、多めにタクシーチケットがもらえるようにするなど、制度等を検討いただければうれしく思います。
・マイクロバスのような小型の自動車であればバス停が復活すると良いと思います。

その他
・ラッシュ時間帯にホームは多くの人があふれていて、電車の動きが危ないので聞こえない人は事故の恐れがある為、できる限り2～3名の駅員を動員できるようお願いしたい。
・避難場所の条件やそこで必要な物・事・人等の情報収集。
・小学校時代から障がい者に対する付き合い方を勉強するなら出張で、本人を連れていきたいと思います。
・前年度に利用がない場合でもショートステイ欄に日数の記入がほしい。

#### (4) 福祉サービスの充実

障がいのある人とその家族が地域で生活していくための福祉サービスのあり方について

- 現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で団体ができることがあれば、教えてください。

##### 【現状や課題】

保護者の高齢化
・障がいのある人の支援の中心は家族に委ねられている。早い段階から親離れできる体制があれば、「親亡き後」を心配する親も減るのではないかと思う。
・家族がもっと地域に出ていけばよいと思う。

その他
・重度障がい者、特に医ケア児が利用できる短期入所施設やグループホームがない。
・「障がい者基幹相談支援センター」を知らない人が多い。ひきこもりの人の家族の人は、悩んでいても相談先を知らない。もっと情報発信をしてほしい。
・高砂市に肢体不自由児者が利用できる放課後等デイサービスがないので、加古川市の事業所を利用している子どもがいます。医療的ケア児も同様なので、早急に事業所が立ちあがることを望みます。また短期入所施設が近くになく、加西市、小野市、姫路市、神戸市に通っています。
・福祉タクシー券交付の条件。 ・自動車税の減免の条件。 ・障害者有料道路通行料金割引の条件。
・現在、要約筆記通訳派遣条件によって、市内在住かつ障害者手帳持ちとなっています。
・障がいのある人のひとり暮らしが展望できない。 ・緊急時の障がい者本人の受入れができない。
・重度の発達障がい者が支援を受けながら生活できる場が少ない。
・社会活動に参加するときの足の確保が大切。

##### 【あれば良いと思う支援・団体ができること】

入所施設・医療機関の充実
・市の空き施設等の提供。
・高砂市で短期入所ができる施設等があればよいと思います。
・重度の発達障がい者でも支援を受けながら生活できる場がほしい。
・これまではなくても、必要とされる支援を受けられることができるサービスの充実。

## その他

- ・ 家族に対して、ひとりで抱え込まないような支援が必要。「相談先」のマップ（ひとめで見て、分かるように）を本人と家族又地域の支援者に対して、分かるように作成できないでしょうか。
- ・ 福祉タクシー券交付の条件や自動車税の減免の条件、障害者有料道路通行料金割引の条件を精神障害者保健福祉手帳所持者、2級まで該当してほしいと思います。
- ・ 働く職場でおきているトラブルについて、働く大人になるために準備できること、働く、稼ぐ、生活するこのサイクルについて研修会等を通して地域に発信しています。
- ・ 市外へ研修等の派遣は認められないとなっていますが、近隣の明石市や三木市は広域派遣として認められているのでこれを参考にしてほしい。また、高砂市は高齢者難聴（手帳なし）が多いので、宝塚市、明石市のように手帳なしでも通訳派遣ができることを認めてほしい。
- ・ 重度訪問介護の支給条件が厳しいのを改善する。
- ・ ヘルパーの支給量を増やす。
- ・ 地域行事に積極的参加すること。
- ・ 活動したいときの連絡網が大切。連絡体制を整えば、サポートできる。

## (5) 総合的な推進

障がいに関する理解の促進や障がいのある人への合理的配慮、障がいのある人の地域社会への参加、情報提供・相談支援について

- 現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で団体ができることがあれば、教えてください。

### 【現状や課題】

高齢化・人材不足
<ul style="list-style-type: none"><li>・同程度の障がいでも保護者の支援の仕方によって本人の予後は大きく変わる。障害者団体において入会者減少のため、役員のなり手が少なく、今後の運営が困難になりつつある。</li></ul>
その他
<ul style="list-style-type: none"><li>・精神障がい者を雇ってくれる企業の見える化。</li><li>・障がいを持っている人もできる、興味を持ったボランティアに参加することは、一つの社会参加になるのではと思います。</li><li>・高砂市障がい者自立支援協議会や高砂市障がい者基幹相談支援センターから、親身になって、情報提供をいただいております。近隣地域よりも進んでおり、素晴らしい対応だと思います。</li><li>・第6期障害福祉計画の時に記載しましたが、現在、各障がい者は計画相談支援を受けていますが、果たして本人の為になっているのか疑問。毎回、マンネリ化した相談支援になっていないか。</li><li>・障がいのある人や家族が自ら必要な情報にアクセスするという面では難しい部分が多い。また地域全体の理解や啓発を進めるためには小さい頃からの教育や、接する機会等がもっと必要。</li><li>・市役所にある各課で「耳マーク」設置があっても職員が手書き等用意せず、いつもの話しかけが多い。</li><li>・障がいのある人の生活実態をふまえた支援が不十分である。障がいの医学モデルの見方が強い。</li><li>・障がいのある人が、地域活動に参加するために、よく話し合いをする。</li><li>・地域の学校ではなく、県立の特別支援学校に通学しているために、地域住民から地域の子どもとして認識されていないことがある。</li></ul>

## 【あれば良いと思う支援・団体ができること】

啓蒙・啓発活動
・ 障がいを持っている人も、できる、興味を持ったボランティアに参加することは、一つの社会参加になるのではと思います。
・ 「耳マーク」カードを渡す場合、必ず、ホワイトボード用意やメモ書き用意をすばやく働きかけるのが望ましいのにそれがなされていない職員が多い。「耳マーク」という意味を徹底的に指導してほしい。
・ 防災に関する計画等を作成する際、自治会単位でどこにどのような障がいをもった人がどのような状況で暮らしているのかを正確に把握する。自治体活動に日頃から参加できる仕組みをつくる。行政や催しへの積極的な参加の呼びかけを行う。

その他
・ 計画相談支援の内容を洗い直し、どうすれば、自立の方向へ向かえるようにできるのか、具体的な相談支援に取り組んでほしいと思います。
・ 障がいのある人や家族の生活実態と願い、悩みを把握すること。
・ 障がい者の親がもっと遠慮なく活動に参加できるように障がい者を見てほしい。
・ 困りごとや保護者に対し、適切な支援やアドバイスができる場所が必要。（親の会の在り方の一番目です。）。我々でできることがあればお手伝いをします。
・ 要約筆記者に社協を通じて連絡あることになっているが、支援できる要員を全国統一試験合格者に限られているが、要約筆記グループの奉仕員（養成講座修了者）も含めれば支援が厚くなるのだが。

## **（6）強度行動障がい（※回答可能な団体のみご回答ください）**

強度行動障がいのある人とその家族の困りごとや、必要と感じる支援などについてお聞きします。

- 強度行動障がいのある方やご家族が苦勞していると思われることを踏まえて、どのような支援が必要だと思いますか。

### **【本人はどのようなことに苦勞していると思いますか】**

内容
・ 様々な問題行動は、自分の行動を理解し支援してくれる人や体制が整っていないために起きていることもあり、本人自身も「困っている人」であることも。自分のことを知って応援してもらえる仲間をふやしていきたいと思ってる。
・ 本人は特に苦勞していないと思います。自分の思いどおりにならないと思いをとおすまでこだわっていく。
・ こだわりが強いため、そのこだわりに自分がはまり込んでいる。
・ 自己表現が出来ないことによる欲求不満。

### **【ご家族はどのようなことに苦勞していると思いますか】**

内容
・ 支援の中心が家族であることが多く、長年本人と向き合い、精神的にも経済的にも苦勞している。また周囲（家庭内も含む）の無理解や迷惑をかけてはいけないという気苦勞等も。
・ 24時間ずっと気が張っていて、疲労がたまっていると思われます。
・ 毎日同じことをするので大変です。
・ 本人のこだわりに対する対応に苦慮している。
・ 同じ答えを求めて、しつこく質問する等。
・ 先の予定に対して、しつこく確認をする等。
・ 歩行（車移動を含む）経路に対するこだわり等。

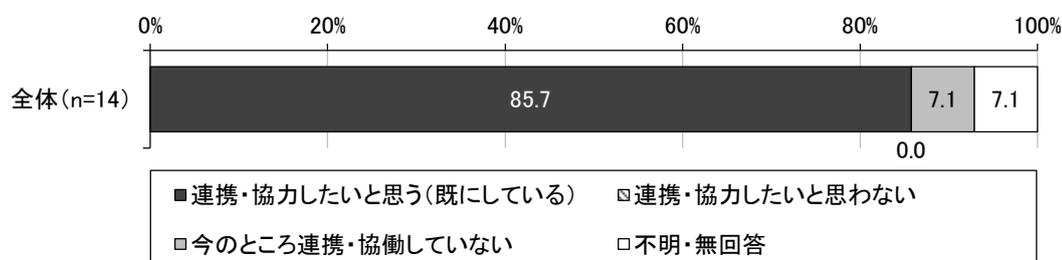
### **【どのような支援が必要だと思いますか】**

内容
・ 支援者のスキルや支援力を向上させるための教育、人材育成、幸い高砂市内には専門の施設もあるので、積極的に啓発や利用を増やしてほしい。
・ 本人のショートステイ利用支援等、家族の休息が確保できればと思います。
・ 本人が、やりたいことをやらせ、ゆっくりとクールダウンさせること。
・ こだわりを少しでも薄めるための支援。
・ 短期、長期ともに保護者が安心して頼る事ができる施設の設置。障がい特性の認知と理解。

### 3. 団体の今後について

(1) 他の団体等と連携・協力を行っていますか。

他団体との連携については、「連携・協力したいと思う（既に行っている）」が85.7%と最も高くなっており、次いで「今のところ連携・協働していない」が7.1%となっています。



(2) 連携・協力することでできることや、行いたいこと

回答団体区分	連携・協力したい団体	連携・協力してできること・行いたいこと
障がい者団体 (高砂市肢体不自由児者父母の会)	・ 高砂市心身障がい者連絡協議会と連携	・ 様々な情報を共有。
障がい者団体 (高砂市視覚障害者協会)	・ 出来る団体があればしたい	・ スポーツ。
障がい者団体 (あしたば家族会)	・ 高砂市心身障がい者連絡協議会 ・ タンポポ福祉会、あしたばの家 ・ 「つなぐ手と手」市民団体・精神福祉ボランティアグループ「ありんこの会」	・ 他障がい者団体との交流・情報交換・啓発活動・啓蒙活動ができる。障がい者団体だけでは実現が困難なので連携・協力して啓発活動を実施する。
障がい者団体 (高砂難聴者協会)	・ 心身障がい連絡協議会、ボランティア連絡会、ちびダンボ会	・ 市長、市議会との懇談会の回数を増やすこと。
障がい者団体 (高砂市手をつなぐ育成会)	・ 市県の育成会	・ 障がいについての勉強会等。

回答団体 区分	連携・協力したい団体	連携・協力してできること・行いたいこと
障がい者団体 (兵庫県自閉症協会 高砂ブロック)	・ 障連協所属の障害者 団体	・ 互いの障がい理解が進み、他の障 がいへの理解が進んでいる。
ボランティア団体 (朗読ボランティアグ ループむつみ会)	・ 高砂市視覚障害者福 祉協会と連携してい ます。	・ 録音 CD (高砂市の広報紙、オリ ジナル情報誌) を月に 2 回作成し 希望する会員宛てに郵送。視障協 の総会の手伝い。メンバー同士の 親睦のための交流会の開催。
ボランティア団体 (高砂要約筆記サーク ルちびダンボ)	・ 社協会員、肢体不自 由の連絡会、視障協 等	—
関係団体 (加古川市立加古川 養護学校)	・ 高砂市障がい者自立 支援協議会 ・ 高砂市障がい者基幹 相談支援センター ・ 高砂市教育委員会	・ 高砂市障がい者自立支援協議会こ ども部会で、高砂市在住の医療的 ケアのある子どもたちの保護者ア ンケートについて、情報共有を行 いました。また以前にはタクシー 利用状況等も調査し、提言するこ ともできました。
関係団体 (社会福祉法人加古川 はぐるま福祉会)	・ 行政、教育、医療、 福祉、様々な団体と 協力をしながら業務 を行っています。	・ よりいっそう、お互いを知り、協 力・連携できる体制づくり。
関係団体 (兵庫県東はりま特別 支援学校)	・ 市立の小・中学校	・ 居住地校 (副籍校) 交流を行って いる。

(3) 連携・協働していない団体のうち、本当は連携・協働を考えているが、その妨げになっていることがあればご記入ください。また、連携・協働している団体でも、連携・協働をさらに広げる・深めるにあたり、妨げになっていることがあればご記入ください。

内容
・ 他の団体とともに協力しあう話し合い等がなかなかない。

## 4. 障がいのある人の悩みや今後の支援について

- 団体に所属している障がいのある人達が、日常生活で一番困っていることをお聞かせください。

施設の不足
・ 短期入所の施設が少ない。自立した生活を送るのが困難（ヘルパー、訪問看護師不足）。
・ 同行援護の支給時間を増やしてほしい。
・ その人らしい生活ができる暮らす場の確保（自宅、グループホーム、シェアハウス等々）。

高齢化
・ 家族なき後に不安を持っている人。仕事をしたいのになかなか就職できない。自分の特技を生かせる場と仲間づくり。大人になって発達障がいを知って悩んでいる人。高齢の親の介護をしている人。さまざまな方達が、いらっしゃいます。
・ 毎回、アンケートに記載していますが、障がい者および保護者が一番困っていること不安に思っていることは「8050 問題」です。つまり、「親亡き後の生活」お互いに高齢化が進み将来的に生活ができるかどうかと言う不安です。
・ 家族が高齢になっていて、家での介護や外出の付き添いが限界にきている。ヘルパーの移動支援や身体介護がもっと使えて、社会参加したい。

家族の問題
・ 本人はさほど困っていないと思われるが、家族等が日々支援に追われている。

その他
・ 自治会や老人会の行事にはほとんど参加していない人が多い。コミュニケーションの仕方を改善努力して、交流を深めることを希望する。
・ 普通に生活をするのが大変。

## 5. 行政（市）に対する要望について

- 行政（市）に対するご要望等あれば、ご記入ください。

窓口、相談先について
<ul style="list-style-type: none"><li>・本校で毎年行っている高砂市の福祉懇談会に参加していただき、保護者との交流を行っていただいていること、本当に感謝しています。また高等部3年生の進路相談会にも毎回参加いただき、卒業後の手続きがスムーズにできています。本当にありがとうございます。</li></ul>

施設の設定
<ul style="list-style-type: none"><li>・重度心身障がい者が利用できる短期入所施設やグループホームの誘致。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・国が平成29年に明確にした「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築ですが、早6年が過ぎましたが、未だになんの進展もありません。構築に向けた取り組みを早急をお願いいたします。</li></ul>

その他
<ul style="list-style-type: none"><li>・精神障がい者の現状を知ってほしい。</li><li>・メンタルサポート（障がい者、ひきこもり、発達障がいの人）の強化をよりきめこまかくしてほしい。</li><li>・就労支援の改善と改革を進めてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・障がいがある方を支える制度、施策が充実してきたことは喜ばしく、その中で、連携の強化が国等では掲げられている中だからこそ、行政も個々のケースに応じた柔軟な対応を希望します。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・今回のようなアンケートの到着から回答締切りまでの期間は、ひと月ぐらい必要です。各項目の「貴団体にできること」について、お盆期間があったことも重なり団体内のメンバーでじっくり検討する時間が取れず残念だった。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・バリアフリーのあるまちづくりを目指してほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・障がいのある人の生活や人生の実態をもっとよく知ってほしい。市の施策の基本が障がいの医学モデルになっていないだろうか。障害者権利委員会の統括所見で出されている人権モデルで施策を進めてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・色々大変ですが、障がいのある人の生活が、どれだけ不自由かということを知ってほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・身体・知的・精神それぞれの障がいに対し、行政からの支援内容に大きく差があるように思われる。知的・発達障がい児に対しては福祉だけではなく、教育の場を大事にして育ててほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・児童・生徒の実態に応じた適切な就学指導をお願いします。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・難聴者手帳保持条件 70 デシベル以上を 50 デシベル以上とすること。</li><li>・要約筆記者が派遣制度以外の活動にも公費をつけること。</li></ul>

### Ⅲ. 事業所調査結果

#### ■ご回答いただいた事業所一覧

事業所名
(株) まごころケア研究センター高砂
社会福祉法人のじぎく福祉会
四つ葉のクローバー
高砂市立高砂児童学園
アロー株式会社
特定非営利活動法人 ももちどり 就労継続支援B型
高砂市障がい者基幹相談支援センター
特定非営利活動法人こども発達サポートセンター
クラフト高砂
株式会社クラ・ゼミ こどもサポート教室「きらり」高砂事業所
ふれあい居宅介護支援事業所
NPO法人サンクチュアリ ヘルパーステーションなごみ
特定非営利活動法人なごみ
ひまわり宝殿・高砂
障害者支援施設あかりの家
地域支援センターあいあむ
NPO法人OLIVE福祉会
特定非営利活動法人タンポポ福祉会
社会福祉法人あかりの家 ワークホーム高砂
児童デイサービス ドルフィン
納豆工房なっとこちゃん
株式会社 想侑
共同援助事業所 希望山荘日笠
児童デイサービス つぼみ
合同会社かけはし
社会福祉法人のじぎく福祉会 (自立支援センターむさしの里)
株式会社こころね
ゆらんこ
合同会社 ドキドキわくわく (れりごー)

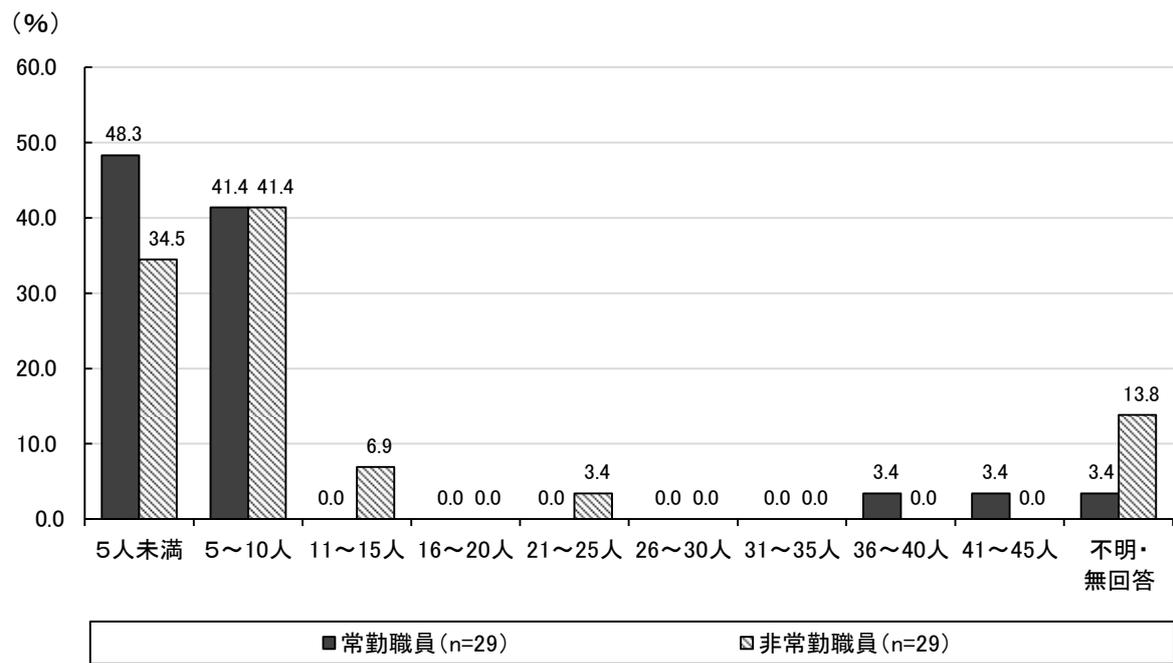
## 1. 事業所の概要について

(1) 事業所が提供されているサービスの種別と利用者様の定員、実際の登録人数

サービス 実施内容	事業所数	種別	0~21 人	21~40 人	41人 以上	不明・ 無回答
居宅介護 (ホームヘルプ)	3件	定員数	0件	2件	0件	1件
		登録者数	2件	0件	1件	0件
重度訪問介護	2件	定員数	1件	0件	0件	1件
		登録者数	1件	0件	1件	0件
生活介護	6件	定員数	3件	1件	0件	2件
		登録者数	3件	0件	1件	2件
短期入所 (ショートステイ)	4件	定員数	0件	0件	0件	4件
		登録者数	1件	0件	0件	3件
就労継続支援A型	2件	定員数	1件	1件	0件	0件
		登録者数	1件	1件	0件	0件
就労継続支援B型	9件	定員数	4件	3件	0件	2件
		登録者数	0件	3件	0件	1件
計画相談支援	5件	定員数	2件	0件	0件	3件
		登録者数	2件	0件	1件	2件
施設入所支援	3件	定員数	1件	0件	0件	2件
		登録者数	1件	2件	0件	0件
共同生活援助 (グループホーム)	5件	定員数	2件	0件	0件	3件
		登録者数	1件	2件	0件	2件
同行援護	1件	定員数	0件	0件	0件	1件
		登録者数	0件	0件	0件	1件
日中一時支援	1件	定員数	0件	0件	0件	1件
		登録者数	0件	0件	0件	1件
放課後等 デイサービス	5件	定員数	1件	0件	0件	4件
		登録者数	0件	1件	1件	3件
児童発達支援	5件	定員数	3件	0件	0件	2件
		登録者数	1件	2件	0件	2件
障害児相談支援	3件	定員数	1件	0件	0件	2件
		登録者数	0件	0件	0件	3件
保育所等訪問支援	1件	定員数	1件	0件	0件	0件
		登録者数	0件	0件	0件	1件
その他	3件	定員数	2件	0件	0件	1件
		登録者数	0件	1件	0件	2件

(令和5年8月1日現在)

(2) ①事業所の職員数（役員を除く）



(令和5年8月1日現在)

(2) ②有資格者の種類と人数の内訳

資格者数は常勤では「介護福祉士」60人と「保育士」32人が多くなっています。

【資格者数】

(人)

資格名	常勤	非常勤
児童指導員	4	6
児童発達支援管理責任者	2	3
保育士	32	12
幼稚園教諭	14	2
療育指導員	0	1
小学校教諭	1	5
相談支援専門員	16	3
サービス管理責任者	3	0
実務者研修	1	0
初任者研修(ヘルパー2級)	8	10
介護支援専門員	2	3
介護福祉士	60	11
主任介護支援専門員	5	0
社会福祉士	24	1
公認心理士(臨床心理士)	3	1
精神保健福祉士	4	1
看護師(准看含む)	6	7
作業療法士	1	1
理学療法士	2	2
管理栄養士	0	3
調理師	0	3
防火管理者	0	2
食品衛生責任者	0	2

(令和5年8月1日現在)

- (3) 今後3年間で、一般就労の可能性のある方の人数（見込みで可）。  
 ※就労継続支援（A型）、就労移行支援の事業所様にお伺いします。

合計値	10人
-----	-----

- (4) 今後3年間で地域生活に移行する可能性のある方の人数（見込みで可）。  
 ※施設入所支援、地域移行支援の事業所様にお伺いします。

合計値	2人
-----	----

- (5) 地域の人材が施設で活躍するような仕組みづくりや、障がいの理解促進に向けた取組といった、地域とのかかわりについて、今後どのようにお考えでしょうか。

内容
・ボランティアの積極的な受入れと地域活動へ参加し、施設を知ってもらう。
・法人内での多様な働き方を仕組み化することにより、地域の小さいお子様がいて働き方に制限がある方や企業で定年退職をした高齢者等を積極的に雇用していきたいと考えています。また、日々の生産活動を通して障がいを持っていても工夫や配慮によってしっかりと働けることを地域の企業に発信していきたいと考えています。
・「障がい者」と一括りに言わず、社会に出て活躍できる方の障がいの特性や関わり方をもっと周知する必要があると思う。
・「インクルーシブ」についての催しや交流会、教育現場への出張説明会等。
・コロナ禍が終わった訳ではないので、なかなか外出して多数の人々が集まるイベントには参加しにくい。
・防災訓練の際に、消防署の方に依頼して消火訓練等ご協力をいただいています。地域のお店へのお買い物体験をプログラムを通して実施しています。
・障がいの理解に向けての研修（地域の方にも研修を広める）の実施や、広報活動等で理解を深める。また、施設のイベントに参加する。
・障がいのあるなしに関わらず、もっと気軽に交流のある場所へ出かけて行ったり、他の人達（地域の方等）と繋がればと思っています。
・地域との関わりについては、コロナ禍の影響もあって乏しくなっていたが、今後は、利用者の外出やその他社会参加も含め、積極的に推進するとともに、ボランティアの受入れやその他の地域交流にも積極的に取り組んでいきたい。

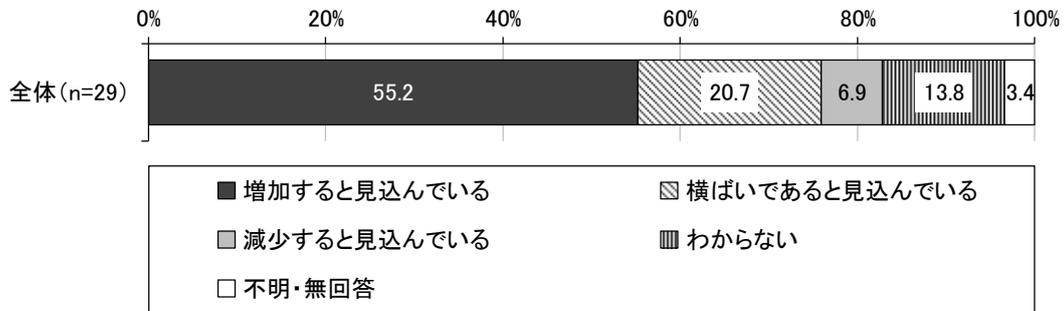
内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方への理解促進には、机上の話よりも実際にご本人さんとお会いして活動を通して知っていただくことが、一番だと考えます。その為には自立支援協議会をはじめとする地域活動が重要なポイントになると考えます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏祭りイベントや地域の清掃、食品ロス削減の為に特価でお弁当・惣菜の販売。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の住民の方々に来ていただいて、バザー等をして、障がい者施設への理解につなげていきたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共生社会は「同じ場所」で活動することが大切である。その為、子どもは「特別支援学校」から普通校へ。大人は「一般雇用」を進めるべき。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のイベントや催し物に参加できる時には参加し、地域の方に当事業所を知ってもらい、いろんな方との出会い、関わりを大切にしていきたいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トライやるウィークや大学等の学生実習の受入れ、兵庫県高砂警察への協力、こども食堂への納豆提供、高砂観光交流ビューロでの販売、市文化センターで納豆教室、ふるさと納税、農家との交流等を実施。継続・拡充する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方達をお招きするようなイベントを考案しているほか、地域イベントに積極的に参加させていただきたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CMや広報誌等への障がい者の登場。取り上げを意識的に進めてほしい。共生社会の呼びかけだけでは何も変わらない。ただ、行政、事業所だけでは無理。企業も巻き込み、ムーブメント化していく。そのリードを行政がしてほしい。単発では×。取り上げるのを「当たり前化」していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労働賃金が一般的職種に比べ低いことは、大きな壁になっていると思います。そこの課題によって「働く」という選択肢に残らないと思われます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ できるだけ、地域の人をスタッフとして採用したり、地域の企業へ、施設外作業として、働きに出向いています。もっと活発に行きたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的なバザーの開催を行い、地域の人達に存在を知ってもらう。今後、自治会・子供会と共同して夏祭りの開催等もしていきたいと考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域との連携や連動。</li> </ul>

## 2. 事業所利用者の状況について

(1) 利用者様の人数がどのように変化すると見込んでいますか。

利用者の人数見込について、「増加すると見込んでいる」が 55.2%と最も高く、ついで「横ばいであると見込んでいる」が 20.7%となっています。

また「減少すると見込んでいる」と答えたのは 6.9%となっています。



(2) 上記のようにお考えの理由

### 【1. 増加すると見込んでいる】

サービスの種別	理由
身体障害、知的障害、精神障害	・精神障がいの方が増えるように思われます。
児童発達支援、障害児相談支援 保育所等訪問支援	・福祉サービス利用者や希望者が増加しているため、増加見込みあり。
共同生活援助	・両親の高齢化に伴い、養育者がいなくなった際の現状での地域生活が困難であるため。
就労継続支援B型	・昨年、開所したばかりの施設です。地域の皆様に広く周知、理解していただくことによって人数が増えると思込んでいます。
基幹相談業務	・障がいの種類やその付属する課題が複雑化していくために。
児童発達支援 放課後等デイサービス	・年々早期発見早期療育や情報社会の中で保護者の方が不安に感じられて早めに動かれる方や相談に来られる方が増えているから。
児童発達支援 放課後等デイサービス	・新規の方からのお問い合わせをいただいておりますが、既存の利用者様も長く通われない方が多く、定員に限りはありますが、利用を希望される方は増加の傾向にあります。
居宅介護支援	・新規依頼を受けていく。
施設入所支援、生活介護 短期入所事業、日中一時支援事業	・市内だけでなく市外や県外からも利用希望が多くあるため。

特定相談支援事業 一般相談支援事業 障害児相談支援事業 障害者等相談支援コーディネイト事業 東播磨臨海地域における相談支援機能強化活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、相談や新規依頼の増加傾向がみられる。</li> </ul>
就労継続支援B型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も体験者の方が所内にて、作業に取り組んでおられます。</li> </ul>
就労継続支援B型 共同援助生活 短期入所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他所にはない作業を用意できていること。（就労継続支援B型）</li> <li>・完全な個室のためプライベートをしっかりと守っていただける。（グループホーム）</li> </ul>
共同援助生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、全国統計を見ても、施設入所者&lt;グループホーム利用者という節目を迎えた。「親亡き後問題」について、自助の時代ではなく、公助・共助の時代。入所施設は新設されてないことからグループホームの増加ニーズは必然。</li> </ul>
就労継続支援A型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がい者は、どんどん増えているため。</li> </ul>
就労継続支援B型 特定相談支援事業 障害児相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校の卒業生の進路先としての受入れは定期的にある。他の相談員からの紹介による受入れもある。一方で就労継続支援B型から就労継続支援A型や移行支援への移行を検討している利用者もいるが、受入れ人数の方が上回ると思われる。</li> </ul>
児童発達支援 放課後等デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期療育、早期発見という時代の中で児童発達支援事業については、保護者、園、病院含め利用希望が多くなっている。</li> </ul>
計画相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で、相談支援事業所が少ないため。</li> </ul>

## 【2. 横ばいであると見込んでいる】

サービスの種別	理由
施設入所支援、短期入所生活介護	・事業所の増加により、利用が分散している。新規利用者はあるが、終了になる方もあり、ほぼ横ばい状態。
就労継続支援B型	・利用者の高齢化に伴い、多様な疾患が増加している。精神障がいの利用者見学や希望が多くなってきているが、通所が不安定であり、定員を増やす余裕がない。
放課後等デイサービス	・見学の問い合わせや、相談員さんからの紹介の数が減ってきているため。
児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援	・現状がすでに最大限に近い状況であるため。
施設入所支援、生活介護 短期入所、相談支援	・競合する事業所が多い。

## 【3. 減少すると見込んでいる】

サービスの種別	理由
児童発達支援 保育所等訪問支援 障害児相談支援	・児童発達支援に関しては、共働きのため、こども園への希望も多く、無償化の利便性も加わり減少傾向にある。子どもの数の減少もある。
就労継続支援B型	・作業所が増えている中で、利用者の選択肢は、より広がっていると考えられるからです。
就労継続支援B型、生活介護	・障がいを持つ人達の「働く場」は、一般企業の中に求めるべきだし進んで来ているので福祉就労は減ると予想している。

## 【4. わからない】

サービスの種別	理由
就労継続支援A型	・当事業所では自立を目指した訓練を通して成長し、就職される方が毎年おられるとともに新規で利用される方もおられます。今後も職員の増員と支援力の向上を実施する中で利用者様の増加に対応できる体制を整えていますが、就職者と新規利用者様のバランスがどう変化していくか分からないからです。
居宅介護 重度訪問介護	・現時点で利用者がいない。その理由は、職員が少なくなかなか新たに受入れることができないため。
就労継続支援B型、生活介護	・就労継続支援B型事業所開設から間がなく、今後獲得を行っていくため。一方、障がい者雇用率増加に伴う一般企業への就労や、近隣の就労継続支援B型事業所の増加による競争の激化で利用者の確保は困難であるため、分からない。

(3) 利用者の困りごと・よくある要望・相談内容等、特に配慮されていること

**【居宅介護・重度訪問介護等事業所】**

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請が難しく、市役所に行くのも大変だ。</li> <li>・部屋を片付けることができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別扱いせず、困っている事、できない事の支援をできる範囲で実施。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしの生活支援・難病になった場合の治療費等経済的な不安・同居家族に障がいがある場合、状況が伝わりにくい。</li> <li>・どのような補助があるのか。</li> <li>・手話通訳を増やしてほしい。</li> <li>・経済的な不安。</li> <li>・自由に外出したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その方の状況を把握し相談支援を行う。</li> <li>・筆談の内容をできるだけ詳細にしている。</li> <li>・混乱をまねかないよう言葉を選んでいる。</li> </ul>

**【施設入所支援】**

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が定着していない、決まった職員に対応してほしい。</li> <li>・自分の思ったように介助してくれる職員に対応してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの為、制限させてもらっていたことを少しずつ緩和している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅の行動障がいをもつ利用者からの支援困難について。</li> <li>・親亡き後の不安。（施設入所の要望）</li> </ul>	—

**【就労継続支援 A 型】**

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々過ごす中で漠然とした不安があり、拭えない。</li> <li>・事業所以外での困った時に相談できる人が少なく、頼れる人がいない等。</li> <li>・たくさん話を聞いてほしい。</li> <li>・体調を崩した時や困った時にサポートしてくれる人がそばにいてほしい等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人の体調や精神状態により、作業の種類や配置を変えています。</li> <li>・休憩時間や利用時間終了後もフリーの職員を配置し、利用者様が相談支援や職員に声をかけやすいよう配慮しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神的な浮き沈みが大きい。</li> <li>・とにかく話を聞いてほしい。一番にかまってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・否定せずに、まず傾聴すること。</li> </ul>

## 【児童発達支援】

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスを利用するまでの流れが分かりにくい。ホームページ等で簡単に知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通園されている子どもは2才児～5才児。年齢、障がい種別が様々な子ども達が集団生活を行っている。一人一人に合った支援方法を見つけ、安全面に配慮した上で療育支援を行っている。5類とはいえ、コロナ等感染症もゼロではない中、感染症対策を実施しながら、又、保護者の理解や協力を得ながら、日々運営している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育機関との連携、どこに相談したらいいのかわかりにくい。</li> <li>今後の進路について。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>発達の遅れ（発語面、医療機関・園での指摘）、学習面、学校生活での困り感（学習についていけない、集団生活になじめない等）。</li> <li>お子様本人に合った方法で、苦手なところを伸ばしてほしい、といったご要望が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多動なお子様、周りの様子が気になるお子様等、環境面の調整を行っています。それぞれのお子様に必要な対応については、保護者様とお話、アセスメントを通して対応を検討している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童通所ということで、現在の学校生活、地域生活の心配、将来についての不安等が多いです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今だけではなく、将来をどう支えられるかを考え、支援の質や量には十分に配慮しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や園との連携。保護者がいろんなところに情報を伝え歩かないといけない。</li> <li>「母同士でつながる機会があればいいのに」という要望が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の希望、本人の現状をしっかりと踏まえながら、よりよい地域生活につながるような支援を行っている。また、支援がしっかりできるように保護者支援に力を入れている。</li> </ul>

## 【共同生活援助】

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>介護が必要になったら、住み慣れたグループホームを出ないといけないのか。手続きはどうしたら良いのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同生活を送る上で相手を思いやる気持ちを持たなければ成り立たない。自己中心的な考えを止める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外出機会が限られている。</li> <li>強度行動障がいのある方が利用できるグループホームや、高齢化対応できるグループホームがほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>強度行動障がいのある方も、当事業所を利用されている。夜間の行動の乱れが顕著になると、宿直体制では無理がある。そんな中、限られたマンパワーで支えている。</li> </ul>

## 【就労継続支援B型】

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設に通える日数を増やしてほしい。</li> <li>・体調が良くなっても日数に制限があるので余裕を持たせてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人様のペースや体調を見ながら支援しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患の利用者の症状の発現が予想できないので対応が難しい局面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自に特有の症状、能力、才能をよく見極め仕事のペースと内容を相談しあいながら合理的な配慮を心がけている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・親亡き後の生活（将来の）一人で生活していくには何が必要か、手続きはどういったものか等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問された事に対してはなるべく丁寧にゆっくりとわかりやすく答えるようにしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の不安。</li> <li>・レクリエーションを増やしてほしい。工賃がもっと増えればいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調の変化について、注視する。仕事に対する自信を育てること。利用者同士の人間関係のトラブルに対して、早い対応をして、ストレスをためないようにしています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「普通の会社で働きたいが、どうすれば良いか」といった内容。</li> <li>・就労継続支援B型から次へのステップアップを目指したい。重い障がい者でも働く場を用意してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強度障がい等重い障がい者であっても当事業所では断らずに働く環境を提供している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がいの方が知的・自閉の方を嫌う傾向があり、苦情を言われる事が多い。左記の理由で部屋を分ける、建物を分けるなどの対策をしてほしいなどの内容。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労継続支援B型に関しては、できる限り笑顔を決やさない事と声かけをする様子を目標にしています。精神・知的の方のテーブルを分けるなど。グループホーム入居者様のお母さん、お姉さんの様なスタッフでいるよう心がけています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者間での相性の問題やちょっとした誤解等でストレスを抱えてしまう。</li> <li>・自分の機嫌が悪いと他の利用者にあたったり等。</li> <li>・将来的な不安。現在の居住の場での困りごと等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者間のトラブルについては相性が悪い人は部屋を分けるなどの配慮。</li> <li>・特に精神疾患を持たれている方については言葉遣いに気を付けて接する。</li> </ul>

## 【相談支援】

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の特性にあった事業所の空きがなく利用までに時間がかかる。空き人数や立地等の理由で短期入所の利用が難しい。また、利用人数が限られている。</li> <li>・本人の特性にあった放課後等児童デイサービスの利用を行いたい。短期入所施設を増やしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の事業所や事務所内で、空き状況等の情報共有を頻回に行うことを心がけている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員さんを探すのが大変でした。</li> <li>・思っていたサービス支給量が出ない。</li> <li>・事業所がない。</li> <li>・厚労省の基準と違うのはなぜですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険者（高砂市）としての方向・支給に関してのご説明を丁寧に行っています。信頼関係構築を最優先し、話しにくそうなことは徐々に引き出しています。連携・報告・連絡・相談を関係者と密にとるようにしています。</li> </ul>

## 【放課後等デイサービス】

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の都合に合わせて利用をさせてほしいが、送迎時の引き受け渡しに合わせて仕事を調整しないとイケないこと。</li> <li>・学習障がいを持っているので学習を取り入れた支援をしてほしいの要望が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習塾のような支援ができないことや、送迎時の引き受け渡しに協力・理解をしてもらえるように丁寧に説明している。</li> </ul>

## 【生活介護】

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームに入居したいが空きがない。</li> <li>・もっと余暇活動や外出を楽しみたい。健康のため、運動をしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のラジオ体操。昼の余暇活動（ダンス・ウォーキング等）で健康づくり。</li> <li>・障がい特性を理解した上での個別支援・意思決定支援をはかること。</li> <li>・コロナウイルスの感染予防を配慮しつつの外出。</li> </ul>

## 【短期入所】

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアが必要な方の短期入所、自宅の近くに少ない等。</li> <li>・送迎や早期入所。</li> </ul>	—

## 【その他】

困りごと・要望・相談内容	特に配慮していること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8050問題、親亡き後の不安。</li> <li>・ 自分の障がいへの理解が分からない。</li> <li>・ 自分のことがよく分からない、客観的な意見やアドバイスがほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人中心支援で考えていく。できる限り要望や不安には答えていきたい。</li> </ul>

(4) 利用者からは、どのような障害福祉サービスを望む声が多いですか。

内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家事ができないので、頼みたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的に聞いていない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヘルパーや訪問看護等の既にあるサービスを望む声が多いです。しかし、必要な状況に関わらず必要と自覚していない方や利用する方法について分からないという方が多いです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども達が毎日喜んで楽しく園に通うこと。日々の生活の中で身辺自立、発語等自分でできるようになってほしいという声を多くいただいている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ショートステイ等一時預かり場所の確保。</li> <li>・ 外出支援。</li> <li>・ 居宅介護の充実。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ショートステイ、外出ヘルパー。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の健康管理の側面から昼食の質の向上、例えば低カロリー食、品数の要望が多い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お子様が楽しく通える場所を求める声が多いです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活支援・通院介助・自立支援訓練を納得いくまで受けたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活（自立した生活）や困り事等もすべて対応してくれるサービスを望んでいると思われるます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設入所支援、共同生活援助の居住系サービス。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご本人のニーズとご家族のニーズの違いがありますが、ご家族や支援者からは利用のしやすい短期入所施設（立地や、対応、利用可能人数等）を望む声は根強くあります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人の方ですが、まだ力不足で片手しか使えない状況なので、ステップアップを不安に思う。自信が持てるまでは就労継続支援B型のサービスを望みたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の生活をサポートしてくれるヘルパーを増やしてほしい。</li> <li>・ 居宅介護の充実。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループホームやホームヘルプサービス。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通機関の利用、買い物体験、調理体験等と生活に必要な体験を取り入れてほしいの声が多い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループホーム、移動支援。</li> </ul>

内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休日の余暇支援の充実にに向けたサービスの拡充。</li> <li>・ (間接的にですが) こういった方達をグループホームで支えていけるためのバックアップ(人員確保と人材育成)。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期休み(学校)の際、活動を増やしてほしいです。社会活動、余暇活動、宿泊体験等。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の就労継続支援A型で満足されているようです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後等デイサービスを要望されたことがあるが、人間的に難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労継続支援B型では2極化しているように思う。安心して、できる作業をゆっくりとする言わば「居場所」を求める方、少しでもたくさん働いて難しい作業も積極的に取り組み、たくさん工賃をもらいたい方がいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ショートステイや外出するときの援助の福祉サービス。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使いやすい福祉サービス。困った時に助けてくれる福祉サービス。状況に合わせた福祉サービス。</li> </ul>

### 3. 事業所の運営・経営について

#### (1) 日常のサービス提供上の課題・改善すべき点・お困りごと等

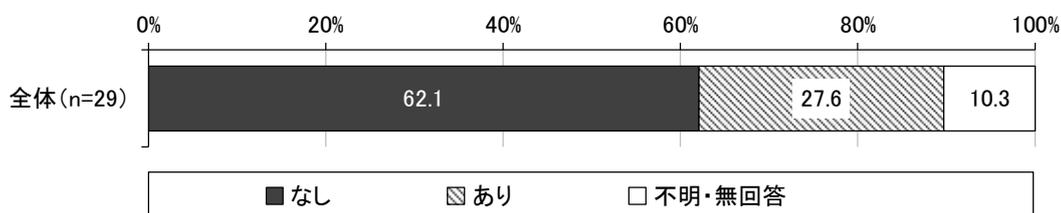
日常	経営上
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暴言による対応。サービス提供の拒否。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービスを引き継ぐのに何度も必要だが、それまでの2人体制になる給付が支給されない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職員の人員不足。基準は満たしているが増員したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稼働率の向上。開設から20年経過し、設備の更新や修理等、費用が増えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の知識や能力向上、支援力の強化。</li> <li>・ 職員間の情報共有の強化。</li> <li>・ 事業所内の作業環境の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世代交代に向けた後継者の育成及び引継ぎ。</li> <li>・ トップダウン方式からボトムアップ方式への一部転換。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設の老朽化問題。現施設の安全性への不安と建物の構造上からくる療育支援の不自由さを日々感じている。子ども用トイレは保育室と離れており、排泄指導についてしまうと保育室に残る職員が一人で残りの子どもを見なければならぬ。支援学校はクラスの一部にトイレが併設されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材確保とスキルアップ（特に療育的支援の専門的知識の積み重ねと経験）特に正規職員が少ない。児童発達支援センターとして役割を機能的に果たすには正規としてキャリアを積む人材が必要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣から日常生活の声にも「うるさい」等の苦情が来るなどあり、利用者に注意するが、近隣からの理解も必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空床状態では経営維持が困難。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 送迎希望の方が多く職員の確保が大変です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まだまだ利用者人数が少ないため、大変です。</li> <li>・ 従業員に最低賃金で働いてもらっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人手不足による質の低下をなんとかしても避けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談数が増えていることに対する人数の確保。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材確保、職員の質の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年々報酬単価が下がっている中で、どのように経営を維持していくのか悩んでいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経理、報告・計画書等事務作業に時間をとられすぎる。直接支援に支障をきたすことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同左</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夕方以降の時間帯に利用される放デイの利用者様が多いため、日時の調整を工夫しています。午前等、未就学のお子様のお受け入れ枠は空いています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 左記を踏まえて、未就学のお子様の受け入れを増やしたいと考えていますが、放デイの方の利用ニーズも高いため、既存の事業所だけでは定員に達してしまっている。</li> </ul>

日常	経営上
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工賃がもう少しずつでも増やせないかと考えています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の利用されているメンバーにどこまで関わって良いのか、関わりすぎてないかを客観的に見ていくように心がけていくこと。一人に時間をかけすぎていないかなど。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 光熱水費、食材料費、日用品費の高騰による経費への圧迫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材確保の難しさ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問時間が夕方や土曜日に集中しやすい。書類作成等の雑務に時間が割かれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動手段や駐車場の確保。突発的な訪問対応にて、計画が立てにくい。報酬が見込めないため、人員の確保が難しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (課題) 職員を増やす。</li> <li>・ (改善) 利用者さんが増える。希望者体験に応えられるように施設外就労。定員数を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今現在、定員数19名で受給者証をお持ちの2名、1名退所2名入所で20名になってしまうため悩んでいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効率のよい作業の受注。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給付金が平均工賃で区分が決まっているが、平均工賃の出し方に疑問を感じます。月20日利用する利用者も、月2.3日しか利用できない人も、同じ一人として、平均工賃の人数割に同等に扱われることになっていますが、精神の障がいの方は波があり、数日しか利用できない人はかなりいらっしゃいます。その方も含め平均工賃を上げるのは、大変なことだと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員数をもっと増やしたいが、報酬が少ないので難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報酬が上がり、正職員として雇用できる人数が増えるようにしてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ てんかん発作持ちの利用者と一緒になった場合、外での療育活動が制限されてしまうこと。発作持ちの子どもを別メニューにした場合、発達特性上、気持ちのムラで怒り、暴れられてしまうのが困っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期休暇時に契約日数を大きく下回ったり、完全に休んでしまう利用者が多く経営上、困ってしまう。契約時に長期休暇時にも特別な理由がないかぎり欠席しないで利用の協力をお願いするように伝えたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい特性を理解した上での実践力のある職員の育成。女性職員の確保・育成（ワークライフバランスや幹部登用）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 光熱水費等施設維持管理費・原材料費の高騰。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やはり精神と知的の方の作業所を分けていく事を考えていかないといけない事が一番の問題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 左記の問題にはそれなりにお金がかかるのですぐには取り組めないが将来的にはその形をとっていきたいと思っている。</li> </ul>

日常	経営上
<ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかくの少人数のグループホームであっても、職員人数から休日の余暇が充足しているとは言い難い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動障がいのある方の夜間の対応。現在、宿直体制をしき、対応時は時間外手当を支払っている。頻度が高まると夜勤体制でないと難しい。そうになると経営上困難。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的知識、技術の必要な仕事であり、それらを備えた人材を育成することが課題であると考えます。しかし、職員数が少なく、その育成中の職員にも大きな責任がかかりすぎてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数、人材の確保という点を、それを維持するための収入の安定。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の障がい者への態度、口調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒字化。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員不足。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">—</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業様からの請負い作業は企業主体となるので、作業量に波がある。作業量が少ない時に利用者さんへ作業提供が難しい。安定した作業量の確保が難しい。授産品の販路拡大も課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営面では安定した利用者数が保てれば現状維持ができるが、就労継続支援B型を卒業して就労継続支援A型や移行支援へ行かれる方が重なると一気に収入減になる。相談支援については常に赤字。今後の新規事業を開拓したくても財源的に厳しいのが現状。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保、職員の質の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材を確保したとしても収入が少なくなっているため単価が下がり、人件費等継続して運営していくことに不安がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当利用者さんの増加に伴い、お困りごとの相談時間が減少していること。書類作成チェック時間が取れずミスをご指摘いただいている点の改善。ご要望の相談支援専門員を配置できていない点。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業所のみでの運営では限界を感じています。職員への仕事に見合った給料を支給できていない事。すべての価格高騰に対処できていない事。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録ヘルパーに対して、キャンセル時の保証を事業所で一部しているが、そこに報酬が発生しない。</li> </ul>

(2) 新規事業所・新規サービスの展開、定員拡大等の予定について（いつごろ、どんな事業を）。※来年度新規創設予定の「就労選択支援」サービス事業の開設予定についても、教えてください。

新規事業所・新規サービスの展開、定員拡大等の予定について、「なし」が62.1%となっており、「あり」が27.6%となっています。



内容
・法人本社を第2作業所として定員拡大を目指している。6ヵ月以内予定。
・就労定着、就労移行の新たな事業所を考えている。
・すぐにではないが就労選択支援の実施を検討。
・グループホームの需要が増えてきた場合、部屋数を増やす。現在10名→17名まで増やす予定。
・1月頃に定員を20名に拡大する。
・共同生活援助についての土地はあるので建物を建てる資金の目途が立てばできるだけ早く開始したい（来年度融資相談を検討）。就労選択支援については人員配置等が整うなら創設したい。
・令和5年度11月に相談支援専門員1名追加予定。

(3) 新型コロナウイルス感染症の拡大当時の、事業所における支援や対応、運営上の困りごと

【支援や対応に関する困りごと】	【運営上に関する困りごと】
・感染症予防に対する物品を揃えるのに費用が掛かった。	・コロナ陽性者が発生すると訪問がストップになったりしてた。
—	・クラスターにより収益減。設備の修理等も重なり、経費状況悪化した。
・事例別や状況ごとの明確な対応基準がなかったため安全確保の観点から慎重にならざるを得ず結果対応の遅れや利用者様の意向に沿えないことがあった。	・感染予防品や感染対策による費用の増加や職員の業務増加。
・バス通園の為、感染症対策はできる限り行ったが、子ども達はマスク着用が困難なため、十分な感染症対策とは何かを考えさせられた。保護者の希望から直接自家用車で登園を可能にするなど、考慮・対応していった。	—
・まだ、開所していません。	—
・通所を控えたい児童がおり、なかなか継続した通所ができなかった。リモートでの支援を実施したが環境面が整えることが大変だった。	・通所利用しない児童が多数いたため、収入が著しく急減した。
・法人内及びグループ内の近隣施設の協力や支援があり、クラスターが短期間で収束できた。	・生活介護及び短期入所を営業することができなかったので、収入減となった。
・全利用者に検温表を配り、朝に記入してもらって持参してもらい確認を来所後すぐに職員が行った。来所後にも玄関で検温・消毒をもらった。職員は週2回の抗原検査と毎日の検温。施設内や送迎車は利用毎に消毒を行った。	・対策を徹底したつもりだったが、1人感染が発覚した途端、次々と感染が広がり結局5日間事業所を閉所せざるを得なくなり（職員にも感染が広がったため）かなりの収入減となった。
・健康上の事を理由に通所できない児童がいたため、継続した支援が出来ない時期があった。保護者からの不安の声もあり感染対策をどうしていくか困った。	・収入の激減。
・職員が感染した際対応ができず、対応が遅れてしまった事。利用者さん感染時サービスが滞ってしまった事。	・アポイントメントを取る期間がなくなり、調整に苦慮した事。

【支援や対応に関する困りごと】	【運営上に関する困りごと】
・利用者や家族に発熱症状が出た場合の対応に関する明確な指針がほしい。	・同左
・通所を控える利用者様が多く、継続したサービスの提供が困難になったこと。職員の感染により、人員配置が危ぶまれたこと。	・人員配置。
・対応できる事業所が限られていた。	—
・職員も感染は怖い（当時）のでどうしたらいいのかとても困ったことです。	・コロナで利用者さんが感染を怖がり来所を控えられたことです。
・他から応援を求めることが難しく、どうしても現場支援員の負担が大きくなってしまった。	・保健衛生資材が足らなくなることがあった。
・在宅ワークを取り入れ、事前に行政に相談をした上電話等での確認を行った。ICTを取り入れ、画像付きでの面談等を行った。	・ICTの差により不便が生じることもあった。
・黙食・消毒・手洗い・体温・徹底、マスクが息苦しくすぐにずらしてしまう方には都度声かけ。	・利用者が感染し、送迎車内で密室になるため全員休んだため売上げが下がった。
・特になし。その節は、色々ご配慮いただきありがとうございました。	—
—	・企業ノルマをこなせなくて困った。
・密を避けるためのスペース確保や支援内容の変更が多かったこと。特に、飲食や外に出ることができなかったことが困った。	・職員が感染してしまった時の人員配置の確保を考えるのが大変だった。感染者・濃厚接触者が出たときの収入の低下。
・外出や行事ができず利用者への働く動機づけとなるサービスが思うように提供できなかった。	・コロナ陽性者や家族の感染等で濃厚接触者となった職員は休まざるをえず、人手が不足したこと。
・外から帰って来た入居者さんもアルコール消毒はきちんとして下さいますし、就労継続支援B型の利用者さんも来所の際は必ずされるので今のところ問題はないです。	—
・マスク等、物資の提供ありがとうございました。	・限られた職員数のため、連続勤務になりがち。介護職員に1名でも感染者が発生するとバックアップ施設の支えがないと単体では対応できない。
—	・身近な方（本人）、周りの方（家族、クラスメイト）の感染があると、サービス全体を止める必要があり、経営に大きな問題が生じた。

#### (4) 提供するサービスの質の向上に向けた課題

内容
・スタッフの研修を定期的に行い、連携がはかれるように心掛ける。
・統一したケア、新人教育（中途採用者含む）。
・職員の増員及び教育・生産活動の強化・事業所内設備の改善。
・人材確保と職員研修の充実やスキルアップ。
・本人らしく自由に暮らしてほしいが共同生活の中である程度ルールが必要であり、守れないことが続いた際の指導の在り方が厳しくなりすぎることがある。
・職員の人数が少ないことと仕事量が多く、作業をこなすことで手がいっぱいになっています。できるだけサービスは行っていますが、難しい状況です。
・人材確保。
・職員育成のための時間の確保。
・画期的な自主製品の製作と拡販に関する人材と資源に乏しい。
・職員向けの外部研修の機会がもっと増えるとよい。福祉・教育・医療・行政の仕組み等、関連するところについての知識・情報は得ておきたいが、得る機会や伝手が無いこと。
・一人一人の利用者さんのニーズをいろんな角度から見直していくことです。
・人材の確保・育成の難しさ。
・普段からの情報共有や信頼関係の構築により、一時的なりも対応には問題が生じないが、長期的な対応については課題が感じられた。
・利用者様が当事業所に来ていただけるのであれば、片道25km圏内ぐらいであれば送迎をさせていただきます。
・利用者の抱える困難、希望について、スタッフ全体で常に共有することを、今後も継続していく。
・職員研修等で障がい者に対する正しい知識と技術を提供する為にも、職員の余裕が必要。
・環境整備を行い、衛生管理を徹底し、安全にその子それぞれに合った支援ができるようにしていきたい。
・障がい特性等の知識と実践力を身につけ、専門性を高めること。話すことができない、できても本当にそう思っているのか分かりにくい方達への意思決定支援。より深い個別支援。
・検温、アルコール消毒の徹底。各入り口にもすべて消毒用アルコールを設置しておく。
・グループホームがミニ施設で終わってしまわないために、積極的な情報交換や研修機会が必要。人間的な余裕と補助があればうれしいです。
・一般就労を増やす。作業単価を上げる。スタッフのスキルアップ。
・職員の質の向上が第一課題。検品に必死で利用者支援が疎かになることがあるので、「福祉サービスである」という自覚を持って利用者と接するように指導していきたい。
・現場の対応に追われ、最低限の研修しかできていない。TPOに合わせたアイスブレイクのスキルアップ。増えていく事業所の把握。

## 4. 各分野についての現状や課題

### (1) 療育、保健・医療、教育の充実

障がいのある人の療育、保健・医療、教育について

●上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性について

#### 【現状や課題】

地域社会・地域の連携
・通院等介助を利用している人としていない人では、本人の身体の現状把握内容が大幅に異なる。
・トライアングルプロジェクトのような連携強化や療育のシステム化。
・療育、保健、医療、教育との連携。
・各機関の連携が取りにくく、もっと気兼ねなく連絡をとりあえるような体制になるとよい。特に、福祉と教育機関・現場との連携・つながりについては目下の課題だと感じます。
・医療や教育との連携は、考え方等の相違もありご本人の意向にそったチーム作りが困難なところがある。医療や教育、そしてそれぞれの事業によって考え方や価値観が違うことを共有していく必要がある。
・早期発見後の早期療育体制。市内の拠点が必要。
・各分野の連携強化とそのための具体的システムの構築。

障がい児を取り巻く環境
・現在、医療的ケア児の在籍はないが、今後、入園希望があった際の職員配置とトイレ。
・(施設側の看護師の不足) 施設側が医療的ケア児を受入れられない原因として、看護師不足が挙げられる。
・多くの児童福祉サービスが預かり支援的になってしまっている。
・障がい児の発達支援に関するセンター機能を充実させるべき。
・学校や医療との連携が難しい。特別支援学校は進路指導の先生とつながれるので連携が取れるが普通学校の支援級の先生や病院の主治医とは壁がある。
・教育、福祉とのスムーズな連携と、市の子育て支援との連携、健康増進課とつながりを持ってほしい。

その他
・色々な制度を活用できるように、もっと発信してほしい。
・ケースによっては適切な治療や支援を受けるのが望ましいが、ご本人の同意が得れず受けるに至っていないことがある。
・保健・医療面での不足を感じる。
・それぞれの障がいのある方の強みを引き出していく方法の確立。
・利用者全員に検温を実施し、体調確認をしています。体調不良で休まれる方には、体調不良の内容をお聞きし、アドバイス等しています。

## 【今後の取組方策や方向性】

療育環境・学校生活
・学園の建て直し又は移転、リフォームの他、看護師（保育士兼）の配置。
・子ども達の将来を考えると、幼保・児童年齢における適切な見立てと専門的な療育・教育が重要であるため、専門的支援サービスの充実が望まれる。
・看護師や保健師等、医療ケアを実施できる人員の拡充。
・高砂児童学園の専門性を高める方向性を追求してはどうか。
・高砂児童学園の機能の見直し。

関係機関との連携
・障がいのある人の日々の様子や状況を各関係機関が共有した上で医療機関等の専門家に相談し指導指示をもらえるような仕組みがあればと思います。
・医療や教育での密なつながり。
・こども部会にて教育との連携がテーマになっているので、積極的に参画していきたい。
・少し広域的な医療・保健機関を利用できるようにする。
・今は、基幹の方に間に入ってもらったり、相談員さん経由で連携を図っているが、そういった仲をつなぐ役割の方が増えるとよい。（本当は現場間でやりとりができるのが望ましい。）
・普段からの研修や交流等にて、信頼関係づくりが大切だと感じている。
・医療機関との連携、学習会、相談支援事業所との情報共有。それぞれ強化していきたいと考えています。
・各分野の行政担当者、調整的役割の現場人材を決め、連携のための具体的かつ実行性のある協議会をつくり進めていく。
・学校と連携をとり、情報交換を行なって、子どもが混乱しないよう同じ方向を向いて療育を行いたい。
・学校についてはこちらから積極的に連絡を取り、顔を覚えてもらうこと。医療は訪問看護師が入っていれば連携しやすいが、入っていない場合が多いので助言程度しか取り組めていない。
・現在自立支援協議会のこども部会にて学校との連携については議論を進めているので充実したらいいと思う。事業所自体も誰でも来てもらえるようなオープンな事業所にしていきたい。

その他
・それぞれの強みを支援者が把握しやすくなるような取り組み等。
・未就学の段階から障がいへの理解を深めていかないと自然差別へ繋がるのではないかと考えています。

## (2) 雇用・就労の支援

就労支援全般（就労継続支援A・B、就労定着支援、就労移行支援等）のあり方について

### ① 上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性について

#### 【現状や課題】

就労支援
・ 就労支援事業所の存在が認知されていく中、障がいのある人の作業力や工夫や配慮次第でしっかり働けるということが認知されづらい。
・ 就労継続支援A型も就労継続支援B型もこの地域に増えています。障がい者の方にとって、今、本当に必要な就労継続支援B型の在り方の模索を続け、実施していきたいと考えています。
・ 就労継続支援の境界が曖昧。
・ 就労支援事業所のバリアフリー化が進んでいない。
・ 当事業所では作業ができる方・社会性が身につけている方については、就労継続支援A型や移行支援へ進めるように後押しをしている。本人の就労意欲を高めるような支援をしている。
・ 能力の差が大きすぎるため、指導も通り一遍にはいかない。だができなかった作業が少しずつでもできるように、自立に向けての支援を徹底する。
・ 個々の体調や気分により、欠席、早退等多いのが現状。
・ 働き出した時のフォローをどうしたらいいのか、難しいです。
・ 利用者さんに一般就労できる体力、気力が無い、甘えが大きい。
・ 障がいについての理解は進んでいるが、ご本人の生活歴や考え方や性格等の把握の違いがある。

情報発信
・ 放デイを卒業される18才の方に提供できる情報が少ない。同じ福祉の分野でも、サービスが違えばどのようなことをしているのかよく分からない。
・ 相談員によって積極的に情報共有をし「ステップアップさせてくれる人と、基本自分で動きなさい。」とでは違う。
・ 雇用・就労に進んだ利用者がまだいないため、情報がなく、情報提供ができない。面談で聞かれた時に答えられないのが申し訳ない。

工賃の確保
・ 工賃が安い。何年働いても工賃が変わらないのが現状。
・ 就労継続支援B型事業について、平均工賃で報酬が決まる仕組みだが、支援の質等多面的な評価が必要。

その他
・分野が細かく分かりにくい。
・行政が重い障がい者についても一般雇用に向けたイニシアチブをとってほしい。
・行政が重度の方の障がい者についても雇用に向けたリードをとってほしい。

### 【今後の取組方策や方向性】

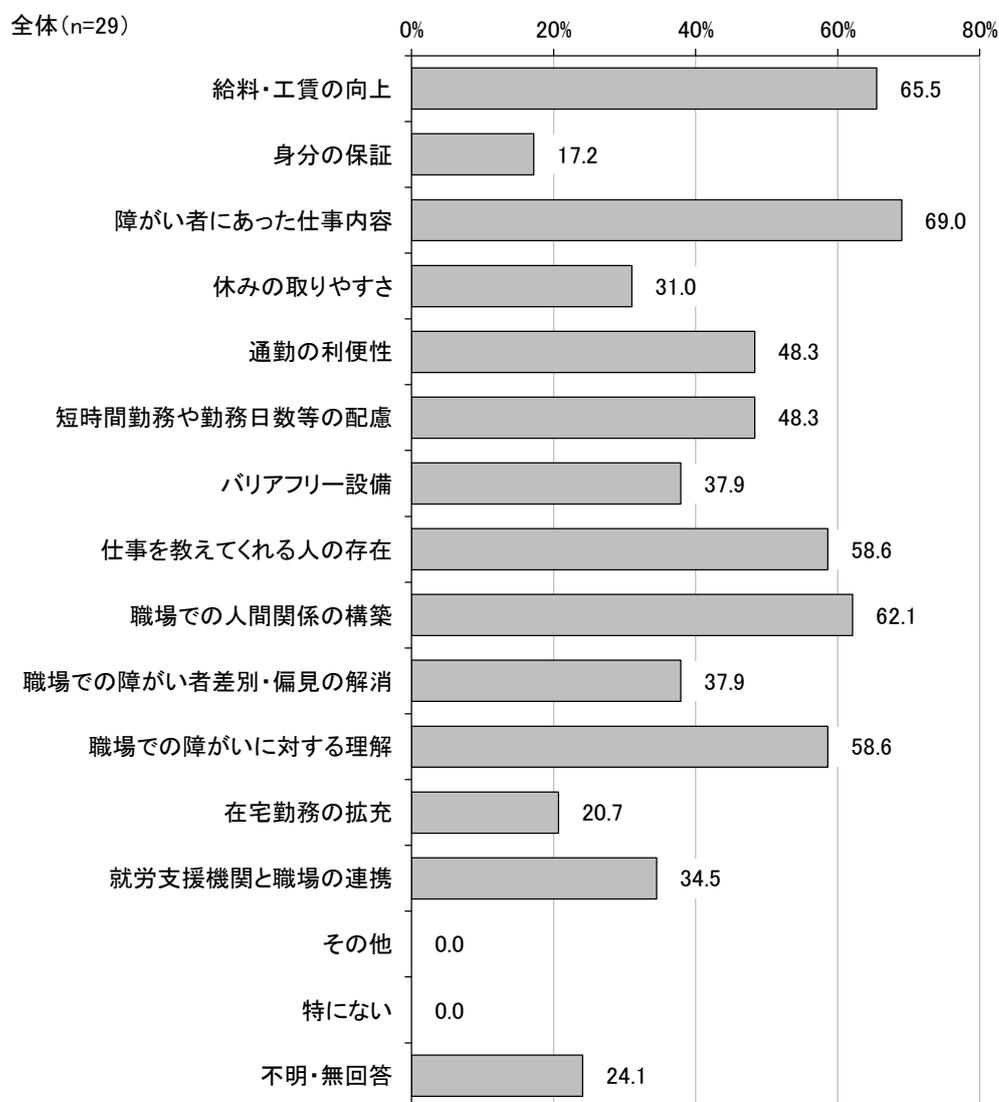
支援体制の強化
・障がい者の方が働きやすい環境作り。
・働きだしても気軽に相談できる所。
・利用者、一人一人の課題を明確にし、作業所での一日一日が利用者の自信や生きがいにつながるよう支援の強化を考えています。
・無理をさせてはいけませんが、短時間でも外に出てコミュニケーションを取り、作業をするように取り組んでいきたい。
・就労能力判定等で、就労継続支援のそれぞれの役割を明確化する必要がある。
・就労継続支援B型事業所で「移行訓練」的実習を積んで次の雇用に向けたステップアップを行う。
・事業所としても一般就労や就労継続支援A型へ移行に注力する。
・グループ分けをして支援員の配置を適切に行なっていく。
・「居場所」として利用されている方でも、時間をかければ徐々に作業能力は上がっている。色々な体験をしてもらい、できる作業を提供し少しでも工賃アップにつなげたい。
・立ち作業を増やしていく。

関係機関との連携・情報発信
・連絡がとれる所については、こちらから積極的に連絡し、情報収集に努めようと思います。地域に、パンフレットが設置できる場所があるとよいなと思います。
・関係機関との連携。
・頻回に多職種間での情報共有を行っていくことが重要であると感じている。
・できる限り情報収集を行い、利用者に情報提供ができるようにしていきたい。

その他
・生産活動や就職活動を通し企業や健常者からの障がいのある人に対する見え方や認識が変わっていけばと思います。
・一貫した動きがとれるようになってほしい。

②障がいのある人が働くにあたり、障がいのある人が、事業所や一緒に働く人に希望することは何だと思えますか。

「障がい者にあった仕事内容」が69.0%と最も高く、次いで「給料・工賃の向上」が65.5%となっています。



### (3) 福祉サービスの充実

障がいのある人とその家族の地域生活を支援する福祉サービスのあり方や、障がいのある人の福祉サービスに対するニーズの動向等について

●上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性について

#### 【現状や課題】

サービス利用
・親亡き後を見据えたグループホームや1人暮らしへの支援サービスの充実。
・通所が難しい方が見受けられる（送迎車に人と一緒に乗ることが嫌、人と会話をしたくないなどの理由）。最初は通所していてもしばらくすると来られなくなってしまふ。
・療育を受けたいといった問い合わせが多くあり、ありがたいことですが、受入れ枠に限度があることや、受給者証日数が限られていることから、希望してすぐの利用につながらないことが課題です。
・グループホームの支援サービスのいっそうの多様化、グループホームの取組の活発化。
・個別事情に対するサービス支給量の個別性が図れていないように感じる。
・精神障がい者に対するサービスは、増やしていかなざるをえないと感じます。まず家庭に問題があることが、一番困った点です。
・福祉サービスについて知らない人が多い。
・申請や利用をためらわれている。
・市から基幹相談支援センターを紹介された後、結局連絡せずにどこにもつながらない事例がある。

人材・事業所の不足
・人材確保。
・サービスを利用したいと思っても、事業所がなかったり、事業所の空きがない。
・人材不足。特に専任の相談支援専門員や児童発達支援管理責任者。
・居宅介護事業所等、地域生活を支える事業所が不足している。
・通院等介助を使いやすいように整備をしてほしい。短期入所施設を増やしてほしい。児童が利用できる施設を増やしてほしい。生活介護の時間を長く利用できるよう、職員体制に支援してほしい。
・夜間に就労できる施設がほとんどない。
・グループホーム（ショートステイを含む）の不足。
・障がい者に対応できる居宅介護の充実。

### 相談・情報提供

- ・利用者様家族から当事業所を利用する以前はどこにどのような内容を相談してよいのか分からず抱え込み続けてしまっていたということがあるので、利用される方だけでなく家族とも連絡を取り合うように心掛けていますが、全体の事業所で行われているわけではなく困っている家族が多いのではないかと考えます。
- ・いろいろなサービスに関しての情報や、手続きを、知らない人は知らないままになってしまっていることがある。
- ・どこに相談に行ったらいいか、情報が必要なところについていない。情報が早いお母さん等一部だけが知っている。
- ・障がいがある方の家族等がどこに相談したらいいのか分かりにくいです。
- ・今でも「障がいがあるから」と孤立し、どこにも相談できない人もおられると思われる。ご本人だけでなく、家族自体が疲弊しているケースもある。

### その他

- ・国は「入所施設は増やさない」、「在宅サービスの充実」を志向しているが、行動障がい等の重度の利用者にとっては厳しい現実がある。
- ・歩道でも段差が多い、点字ブロックに障害物がある。
- ・公共交通機関やスーパー等は、より障がい者が利用しやすいものとなってほしい。特に「駅」は命に関わるような事故も散見されており、課題は多い。

## 【今後の取組方策や方向性】

相談支援
・障がいを抱えている人だけでなく家族に対しても気軽に相談を行える総合的な相談窓口を用意し、病院や役所、テレビ等で広告し、よく目にする状況が大切。
・もっと分かりやすい窓口、例えば困っていることの相談は何でも聞きますとか難しいとは思いますが。
・個別事情に対するヒアリングを寄り添い姿勢を行い、サービス量の調整とその効果について客観的にモニタリングする仕組みがあるべき。
・誰もが気軽に「HELP」を出せる場。民生委員や自治会と繋がり、地域で孤立している人の相談役になれたらと思う。
・相談から実行まで一連の支援が必要。

事業所の環境整備
・児発管相談支援専門員、有資格者は3名いるが専任は各1名。相談70件を一人で担当している。
・体調不良・ケガ等でも行かなくてはならないことがある、代理や代わりがきかない。
・地域生活を支える事業所の充実。
・そのような利用者にとっても在宅生活を可能にするため、重度訪問介護等のサービス量の拡充と人材の確保・育成が望まれる。
・権利条約の観点から住む場所を周りが選んではいけないことやケアラー全体の課題（介護を家族に押し付けない、ケアラーの人権保障）を考えると「重度訪問介護」の利用促進が重要な取組になると感じる。
・朝が苦手、夜型という方が結構おり、夜間型就労継続支援B型を開設したい。
・事業者との連携。
・一般企業とのコラボ等、福祉専門人材との連携し、直接介護員の確保必要。
・自立支援協議会が作成した保護者向けハンドブック等を広める活動、ハンドブックを有意義に活用しながら保護者の知りたい情報、伝えられることを知らせていきたい。
・家族支援に関する福祉サービスがまだまだ不足しているように感じます。当事業所では家族支援を大事にしながら支援しています。
・在宅支援をしっかりと確立していくべきである。それにより、救われる方（ご家族、本人）はかなり多いと思われる。
・家庭のことに、どの程度まで関わっていくのかは、非常に難しい。

その他
・グループホームから事業所や会社へ通勤するための援助（金）とサービス。
・グループホームから、事業所や会社へ通勤、通所するためのサービスの新設（見守りあれば、半自力通所できる方もいる）やグループホーム連絡会が設立（情報交換）。
・皆と同じように福祉サービスを受けることができるように情報や、手続きの仕方を知らせてあげてほしい。

#### (4) 相談支援の充実

相談支援体制全般（相談支援事業所、基幹相談支援センター等）のあり方について

#### ●上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性について

##### 【現状や課題】

相談支援体制の周知
・障がいのある人やそのご家族が相談支援事業所や基幹相談支援センターについてあまり分かっていないケースがよくあります。
・市民の方に分かりやすいように（何をしてくれるところか）表記できないのかと思います。
・基幹相談支援センターのことを知っている人が少なかったり、知っていても基幹相談支援センターまで相談をすることではないかと思っていたりする。

人材・事業所の不足
・相談支援員をもっと増やす。
・市内の相談支援事業所、基幹センターの方とは日々連携させていただいており、大変お世話になっています。本当に助かっています。一方で、相談員さんの数が少なく、サービス利用を望んでいる方へスムーズなご案内が難しいのが課題です。
・相談支援専門員の拡充。
・相談員が足りていない。
・報酬が低く、事業所数が伸びない。
・相談支援専門員が少ない。
・利用ニーズに対して、相談支援事業所の許容量が少ない現状がある。
・児童も対応できる相談支援事業所を増やしてほしい。
・相談員ごとに相談対応件数のばらつきが大きい。
・相談員が少ない。相談員の質に、大きなバラツキがある。
・相談員が少ない中、私自身が休まざるをえなかったとき、市や他の相談員が協力してくれたことが本当にありがたかった。相談だけで黒字になるような報酬単価ならもっと成り手が増えると思う。

その他
・令和5年4月にオープンしたばかりで、担当者は、お一人お一人の対応を通じて学習し、支援の幅を広げているところです。
・経営として成り立つようにしてほしい。
・保護者が相談支援員を探す際、一覧表の名簿でしかはかれないので分かりにくさがあるのではないかと思います。
・しっかりと情報共有ができない相談員（相談事業所）があり困ることがある。

## 【今後の取組方策や方向性】

情報提供・共有・連携
・事業所からも逐一お伝えはしていますが、可能であれば必要としている人にしっかりと役割や仕組みが伝わるようになればと思います。
・引き続き、連携をしながらお互いの情報交換ができればと思います。
・民間法人だけでは限界があると思われる。かつてのように、行政が一定程度関与する必要がある。
・小さな事でも報告して関わりのある機関との連携。
・相談をする・しないに関係なく、気軽に問い合わせをしてみるよう伝えたいと思う。
・然るべき専門家へつなぐ相談体制は充実しつつあるが、療育的相談（ワンステップ）を担う部門が希薄に思われる。そういった方については制度外で有志として行われていることが想像できる。既定のサービスに結び付けて取り扱われるものとしている流れにあるが、サービス提供者は本来サービスに主たるサービス提供時間と労力を充てないと、経営的に問題が生じてしまうため、相談対応へ多くの時間、労力を充てにくいものと思われる。
・よりいっそうの相談支援員さんとの連携を図っていく。
・初期相談から相談支援事業所へつなぐまでのシステムの構築。
・色々な学習会に参加し、また、他事業所に相談させてもらい、利用者にとってより安心できる相談支援事業を構築していくつもりです。
・主任相談支援専門員になったこともあるが、今後はもっと地域の中で相談員として色々な取組をしていきたい。

人材確保・質の向上
・人材不足。
・人材の拡充。
・研修会等を通して質の向上に努めたい。
・スキルアップを期待します。

報酬の見直し
・相談支援事業所を増やすように報酬安定が必要。
・報酬の見直しが必要。
・報酬の見直し。

その他
・相談支援事業所への理解と支援。
・困っている方々が気軽に立ちよれる場所になればよいと思いますが。

## (5) 総合的な推進

障がいに関しての理解の促進や障がいのある人への合理的配慮、障がいのある人の地域社会への参加、情報提供について

### ●上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性について

#### 【現状や課題】

共生社会
・園外の行事として、地域の園と交流を行ったり、田植え・稲刈り等を親子で実体験させていただいたりし、交流を通して子ども達への理解を深めていただいている。
・療育への理解を示して下さる場所、現場がまだまだ少ないように感じます。お互いにできる、できないことはあると思いますが、少しでも「取り入れてみようかな」という学校現場・園等が増えてきたらいいなと思います。
・インクルーシブなまちづくり。
・障がいのある人もない人も、ともに地域の中で暮らすことのできる社会を作っていくためには、様々な社会活動に参加しやすいようにしていく必要があります。
・自立支援協議会が地域参加、地域活動の場をつくるように頑張っているが、事業所の参加等推進し、さらに活発かつ拡充すると暮らしやすい地域になると思う。
・地域参加を進めていますが、現状難しく考えています。飲食店等行きたい場所がバリアフリー化できていなかったり、推進してほしいです。
・自立支援協議会等で当事者の会やイベント等を開催していただいているが市民の中でも浸透して行ってほしい。

障がいに対する理解
・グレーゾーンの方、または軽度の障がい者に対する理解を深める必要があると思う。
・精神障がいの方が多く、作業に関しては流れや手順は具体的で簡潔な指示を意識しています。精神面では職員と話しやすい環境作りを心掛けています。
・インクルーシブ教育等教育現場での交流や理解が不足しているように感じる。
・障がいがあっても一人の人間として関わっていく方がよいと個人的には思います。できない事や困っている事があれば助け合えればいかと。
・内部学習会や、講師をお招きしての学習会を通じて、障がいの特性や対応について話し、認識を深めていきます。
・障がい者に対する理解促進が必要。
・障がい児に対して知識を持っていなかったり、対応しきれない等の方が関わりを持っている。
・理解ができないという壁の分厚さを常に感じている。
・まだまだ社会での障がい理解が進んでいないと思う場面や状況があると保護者から聞くこともあり、不安なく安心して過ごせる高砂市になったらいいと思います。

その他
・精神障がい者は、何かに依存してる事が多いので金銭管理、財産管理が必要ではないか。
・行動援護事業所がない。
・ヘルパー資格（移動支援等）を取っても、机上研修の意であるため、育成の場がなく、事業所間の差が大きい。
・自らが情報提供を求めて市役所等へ問い合わせできる人はつながれると思うが、それもできない人ほど、困り感は大きいのではないか。地域の中で孤立している人の把握が難しい。
・障がいのある人の情報についてご本人が本当に望んでいる事や必要な支援が見えづらくご本人もよく分かっていないことがある。

### 【今後の取組方策や方向性】

地域活動・地域交流
・交流は子ども達も保護者の方も大変喜んで下さり、充実したものになっているので今後も園（公民館）や地域、できれば学校（難しければ5才児だけでも）関係とも取り組んでいきたい。
・地域の先生方との意見交換会や、学校、園での行事に参加しやすくなると思います。
・自立支援協議会のイベントやニーズにあったイベントの実施。
・独自の取組を継続する他、自立支援協議会等の取組にも積極的に参加していきたい。
・障がい者も健常者もすべてひっくるめたイベントを考えている。
・近隣2市2町がタッグを組み、研修企画をバックアップ。
・既存のヘルパー事業所への実践的なブラッシュアップの場の提供。

啓発活動
・インクルーシブ教育の充実や、社会福祉施設から積極的に情報を発信する。
・広報活動を市の方でも積極的に行っていただけたら嬉しいです。私達も積極的に宣伝していきたいと思います。
・学習会の回数を増やし、スタッフの障がいに対する理解度を高めていこうと考えています。
・「社会人1年生」の人達全てに障がい者理解に関する研修を取り入れる。
・子どもの発達特性に合わせながら研修を受けたり、職員間で共通理解をし、さらに子ども達にとって過ごしやすい環境となるようにする。

情報提供・共有・連携
・本人を取り巻く家族を含む、社会に対して少しでも本人を知ってもらおう視点で他機関との連携を図っていきたい。
・例えば、飲食店等車椅子の方等へ、実際に接することでしか実感は感じない事もあると思うので、連携・連動を進めていければと考えています。
・市役所からの情報提供や、民生委員・自治会と繋がり、地域の中で困っている人を拾っていきたい。

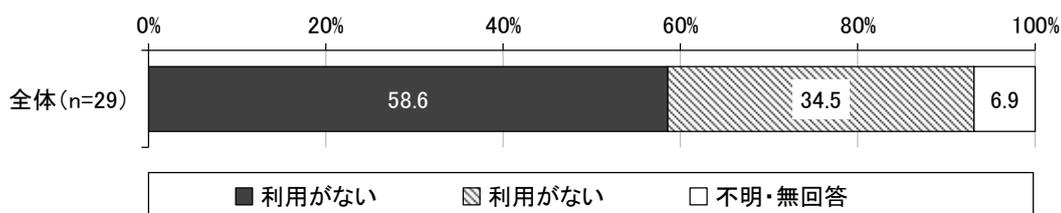
その他
・個人情報保護の観点から難しいと思いますが、ご本人に関わる専門家の意見や情報をデータベースのようなもので、関係機関がオンライン上で見られるようになれば、具体的な情報が共有でき、よりご本人のニーズに沿った支援ができるようになると思います。
・他の障がい児も勉強、理解し対応できるよう取り組んでいきたいと思います。
・手助けしすぎずその人の強みをうまく引き出し、助けられるよう、お互いに人と人として助けられる取組があればと思います。
・幅広く意見を聞く機会を確保しながらその意見の尊重に努めます。

## (6) 強度行動障がい

強度行動障がいのある方の利用状況や受け入れ体制について

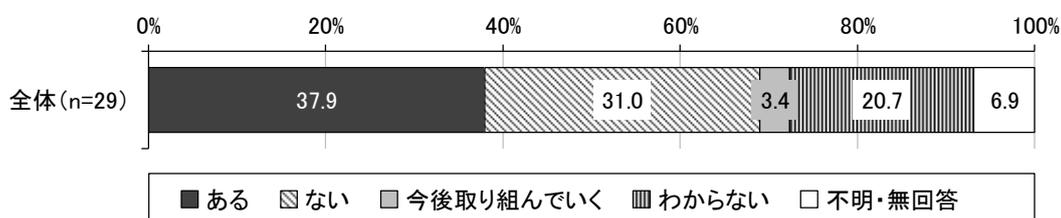
### ①現在、事業所において強度行動障がいのある方の利用はありますか。

強度行動障がいのある方の利用については、「利用がない」が58.6%となっており、「利用がある」が34.5%となっています。



### ②現在、事業所で強度行動障がいのある方を受け入れる体制はありますか。

強度行動障がいのある方を受け入れる体制については、「ある」が37.9%となっており、「ない」が31.0%、「今後取り組んでいく」が3.4%となっています。



- ③ ②で「1. ある」「3. 今後取り組んでいく」を選択された方にお伺いします。  
受け入れに向けた課題はありますか。

内容
・昨年度（令和4年）まで1名在籍していたが、そのような行動が見られた際、職員1名がついていなければならないので、クラスの他の子ども達を支援する職員が足りなくなり、職員配置及び設定が難しくなる。
・相談支援事業所として、地域で強度行動障がいを受入れてくれる施設を増やすこと。
・人材確保、支援の質の担保。
・資格を持った職員はいますが、実際に受入れたことがないので、提供できるサービス（利用者様のニーズに合うか）等は、その時にならないと受け入れ可否の判断は難しい。
・定員は満床の状態である。
・強度行動障がい支援者研修の受講枠を増やしてほしい。
・職員教育を充実させたい。
・強度行動障がいに当てはまりそうな利用者があるので、研修を受けて勉強をし、その子に合った支援ができるようにしていきたい。
・夜勤体制で運営できる財源確保。
・グループホームの周りの住民の方の理解（奇声等）。
・職員の質の向上、力量を付けていく必要がある。
・サービス提供事業所の増加。

## (7) その他、障害者福祉施策全般について

### ●上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性について

#### 【現状や課題】

サービスの向上
・障がい者の方の事だけでなく、支援員等の賃金が少ないので離職やモチベーションが上がらないのが現状と思う。
・申請や利用を躊躇したり、サービスがあることを知らない人が多い。 ・支援を受けている人とそうでない人の差が大きい。 ・ケアマネも施策等について知識を広める必要がある。
・今、求められる、就労継続支援B型の在り方、役割を再確認する時期だと考えています。
・児童のサービスに携わっているので、その視点での意見が中心になってしまいましたが、利用したいと思われる方が利用しやすくなるよう、制度面、現場での対応等、柔軟になっていくとよいと思います。
・画期的な自主製品の安定的な販売先の確保。
・利用者子ども達が将来、一人になっても生活する力が身につくような療育を取り入れたいが、コロナ感染症の影響でそのような療育が取り入れられていない。

人材・事業所の不足
・労働人口の減少による福祉業界の人材不足。物価高等による福祉事業所運営への影響。
・地域の中で相談員が少ないこと。一人の相談員が抱える利用者数が多い。報酬につながらない仕事内容がかなりあること。
・市全体のニーズに合わせたサービス事業所の充足。
・就労継続支援事業所の再編等や相談支援の事業所の増加。

行政への望み
・「明石市にできることは高砂市でも可能」をスローガンにしてはどうか。
・関わる子ども達や保護者の日々の生活での悩み、憤りを感じている話も耳にする。福祉サービスだけでなく高砂市役所等も垣根を越えてそれぞれの質の向上が図れるような仕組みづくりと充実が必要。
・本当に困っている障がい者の方の簡単な窓口。障がい者の方は窓口において内容が難しく、一人でできないことが多い（書類等）。
・障がい者が占める人口の割合は15%と言われている。「共生社会」が叫ばれているが、統括は困難。しかし、このまま時が流れて行ってしまう可能性が高く、大胆な取組が必要。行政が「こういう街にしたい」と宣言する。

## その他

- ・ご本人・ご家族の声をまとめてみると、オムツ支給の条件を緩和してほしい。権利条約で住む場所を自由に決める権利はあるが、保護者がいるなどの理由で一人暮らしを進めることを阻まれたことがある。また、一人暮らしをするための福祉サービスである重度訪問介護の支給を決定してもらえない。自宅で過ごしたいという思いがあっても、介護・療育が困難な場合は自宅でサービスを受けながら生活するよりも施設入所を進められる。障がいをもつご本人の親がいる場合は、親が面倒をみななければいけないと言われる。医ケアのある児童の学校送迎を親が担っていることが多い。通学補償とインクルーシブ教育の推進。緊急時のご本人が安心して過ごせる場所が少ない。地域生活支援拠点の進行具合が分からない。60歳前後を超えた就労継続支援B型の利用ができないといった、ご本人の意向にそった障害福祉サービスの利用が困難な場合がある。短期入所の利用がないということで支給打ち切りがされている現状だが、支給を受けていても、受入れてくれる事業所が少なく使えない状況である（コロナ禍で新規受入れが厳しい）。
- ・国は最低賃金やベースアップ等賃金の底上げを求めてきているのにも関わらず、「委託契約を締結する事業の人件費相当額は据え置かれている」との話をおの事業所から聞き、委託事業や下請事業に手を上げにくいと感ずることがある。

## 【今後の取組方策や方向性】

共生社会
<ul style="list-style-type: none"><li>・うまく言えませんが本当の意味での「よりそう」助け合いができれば良いと思います。なかなか難しいとは思いますが。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・広報誌、CM等に障がいのある方の登場（人口比率からすると15%もあるのに取り上げ率はほぼない）。</li><li>・障がい者雇用を進める企業を連合化し、活動をPR。日本財団が世界大手企業500社のCEOと連携し、「障がい者のビジネスにおける差別と排除を終わらせる」（ビジネスにおけるインクルージョンという）「The Valiable」の取組に感銘しています。</li></ul>

サービスの向上
<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な人脈等を通してPR・拡販に努める。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ感染症の動向を見守りながら、順次に療育に取り入れられるようにしていきたいと思う。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・申請主義ではあるが、わかりやすく情報を伝えていく必要がある。</li><li>・65才を過ぎても、知的障がいの方等、障がい者施設の方が適していると思われる場合入所できるようにしてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・放課後等デイサービスの日数が制限されている現状に対して、療育と働く親支援を放課後の支援の方法等を検討してほしい。現状、現場で受入れをしてくれているが制度として、特別支援学校へ通学する児童が利用できるシステムの構築をお願いしたい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ストレスも多い職場なのでメンタル面のケアも必要だと思います。</li></ul>

行政への望み
<ul style="list-style-type: none"><li>・より充実した暮らしになるように努力していきたいです。また、市の方でも本人の立場に立った施策の充実をお願いします。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・今後とも障がい福祉課の担当職員の皆様には、ご指導よろしく願いいたします。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・周辺市町との「比較表」を市民に公表して、自分の市の水準を知る。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・療育相談の体制充実を予算化した方がいいと考える。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・福祉職員の処遇改善による人材不足の解消等を目的とした、国や市町村による事業所への支援や報酬の底上げが必要ではないかと感じています。</li></ul>



第7期高砂市障害福祉計画兼  
第3期障害児福祉計画策定に向けたアンケート

令和5年10月 発行

発行/高砂市

編集/高砂市 福祉部 生活福祉室 障がい福祉課

〒676-8501 高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号